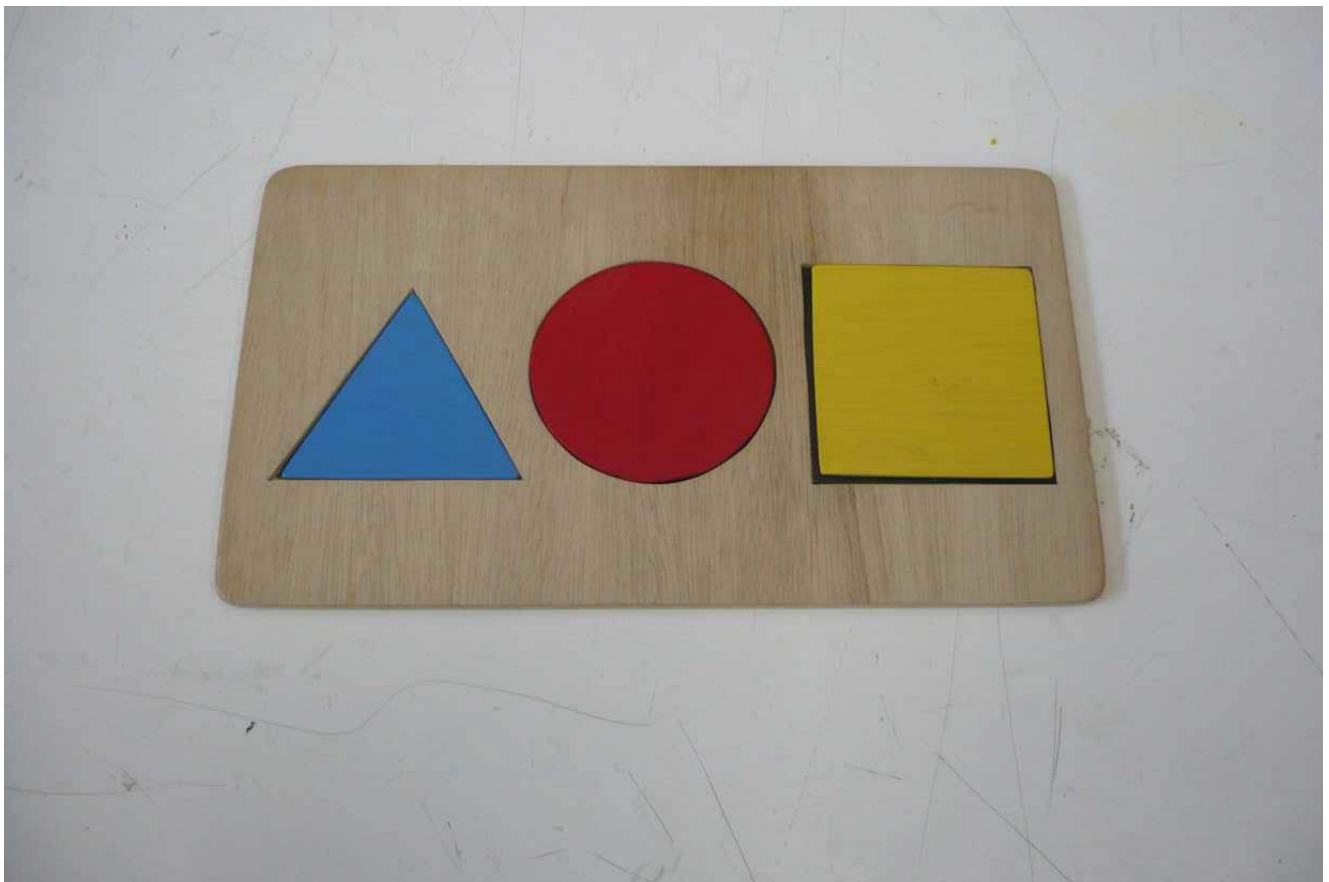


| | | | |
|-------|-------|-----|----------------|
| 教材教具名 | 型はめ | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 国語数学（中学部） |
| ねらい | ・形の弁別 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・△○□ それぞれの型を1つずつ渡し、正しい型にはめさせる。

<工夫点>

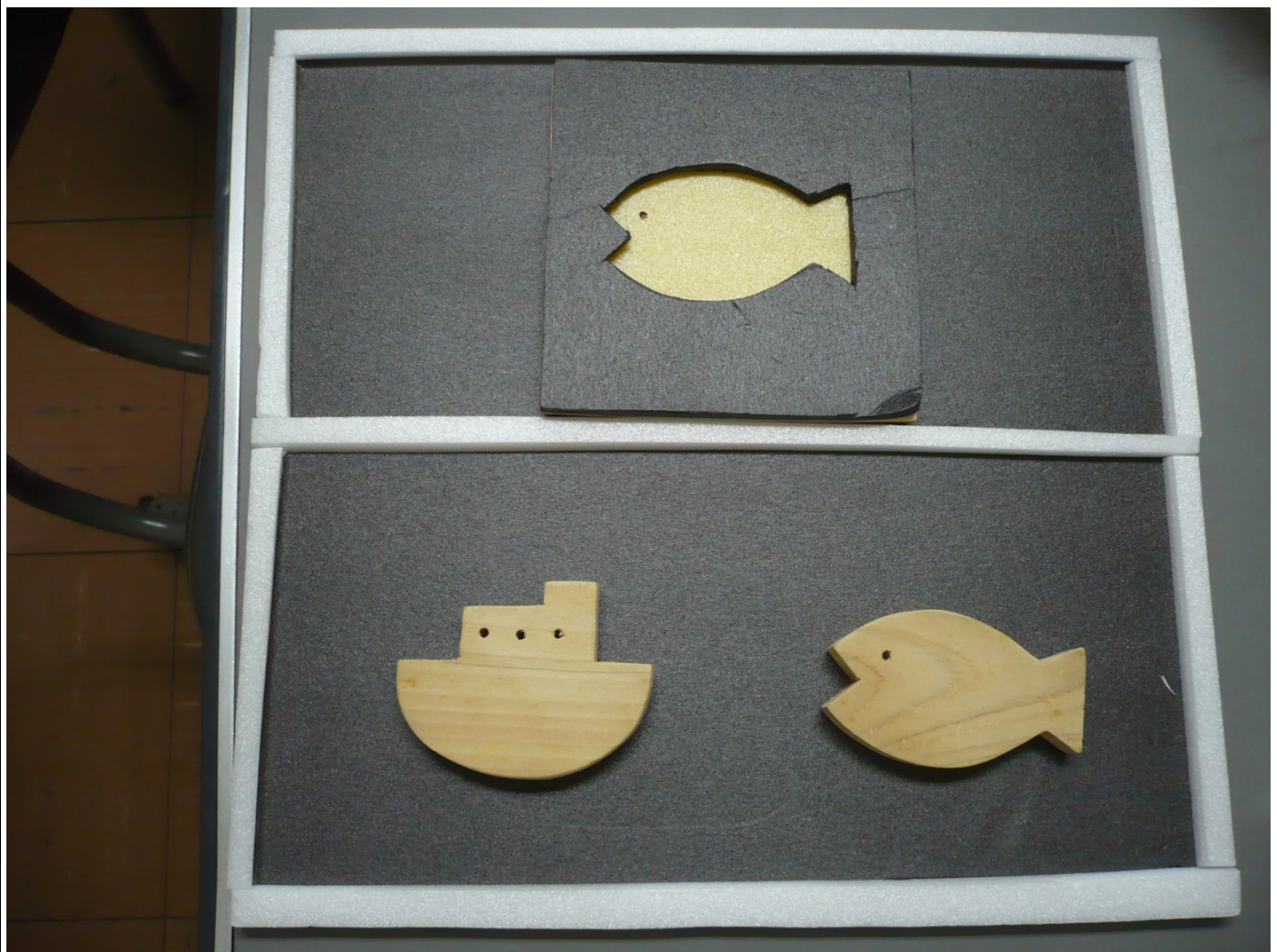
- ・元のはめ底が木材の色そのままだったので、黒のテープをはり、境目を分かりやすいようにした。

<効果>

- ・型の段差が5mm程度しかないため、少しの力でズれたり、はまりきらなかったりした。段差は1cm以上あると、カチッと「はめた感」が増すと思われる。

| | | | |
|-------|--|-----|------------------|
| 教材教員名 | 形のマッチング（型はめ） | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> 指定された形を見て選び、はめこんで確かめる。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- 見本を一つと選択肢を2又は3つ並べる。
- 見本と見比べながら同じものを探し、枠にはめることで正解していること確かめる。

<工夫点>

- 枠を黒で作ることにより、見やすくした。

| | | | |
|-------|---|-----|------------------|
| 教材教員名 | コンセントカバーの型はめ | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・形（と色）のマッチングが出来る。 ・手指の巧緻性を高める。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・コンセントカバーと型はめの台をばらばらにしておく。
- ・ひとつずつマッチングをしてはめていく。

<工夫点>

- ・コンセントカバーがぴったりはまるように台を作成した。

<効果>

- ・両手を使いしっかり押しこんで型はめをすることができた。

| | | | |
|-------|---|-----|----------------|
| 教材教具名 | 物のマッチング | 分類 | 記号の学習 - 形から文字へ |
| | | 授業名 | 国語数学 (中学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 2つのうち、提示されたものと同じ物を選べるようになる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 最初に2つの物を提示する。
- どちらかと同じ物を1つ置き、同じ物を2つの中から取る。

<工夫点>

- 感触が全く違う物を用意することで、対象生徒が手で触ってわかりやすいようにした。

<効果>

- 最初は気分で取っていたが、対象生徒の腕に提示した3つを軽くあてることで少しずつ何が同じかわかるようになった。

| | | | |
|-------|-----------------|-----|-------------------|
| 教材教員名 | スプーンとフォークを分類しよう | 分類 | 記号の学習 - 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |

ねらい

- 形の違いを見分けることができる。
- 写真の示すものを理解できる。

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 箱の中に入っているスプーンとフォークを分類する。はじめは1本ずつ置き、徐々に増やしていく。

- 【ステップ】
- ①分類する2つの箱にスプーンとフォークの実物を入れておく。
 - ②実物と同じ大きさの写真を貼っておく。
 - ③実物より小さい写真を貼っておく。 → それぞれに分類する。

<工夫点>

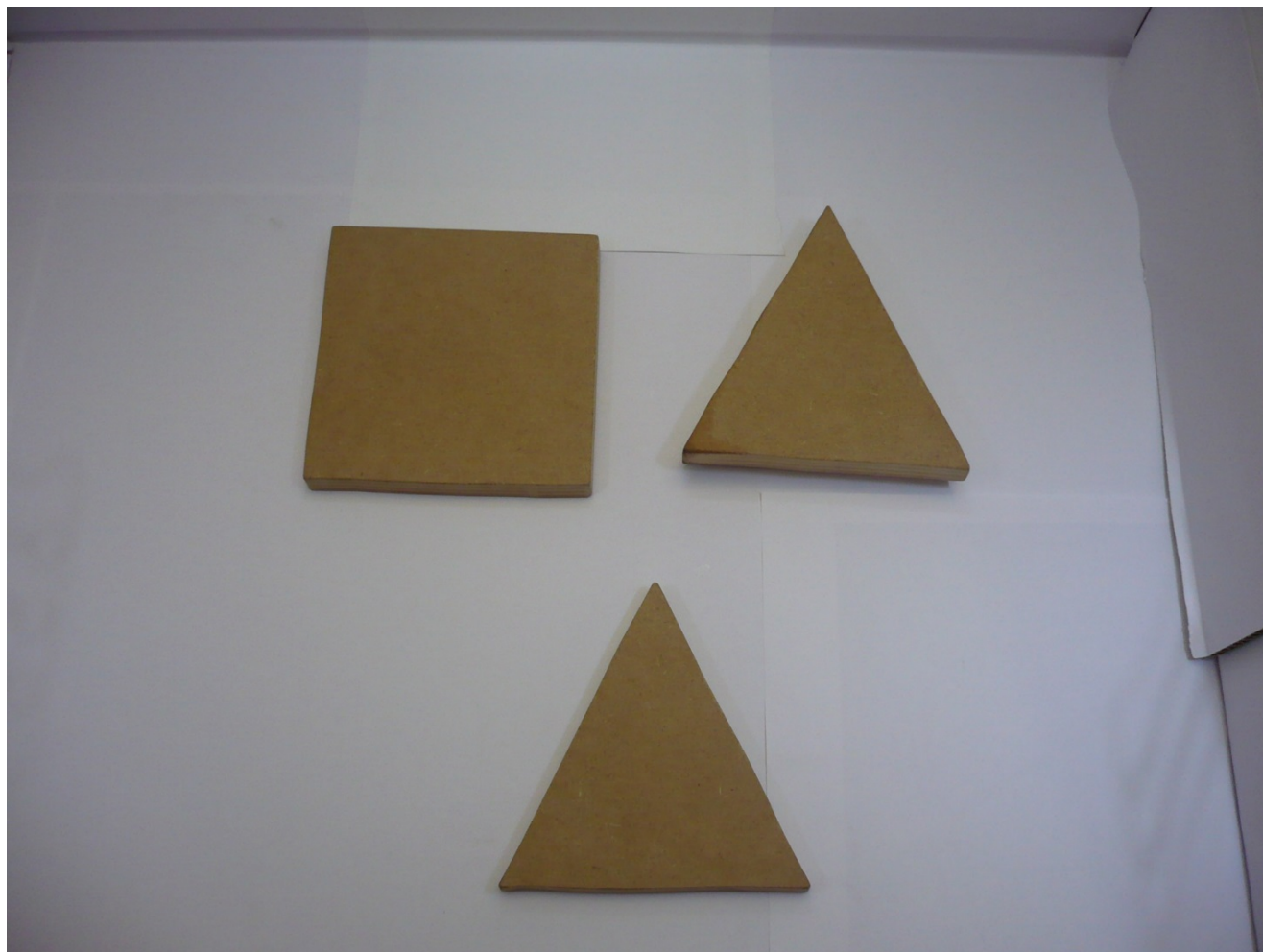
- 見やすいように箱は黒や茶を使用した。
- スプーンとフォークの写真を見て分類するように (場所で覚えたり、ただ分けたりしないように)、毎時間配置を交換した。

<効果>

- 写真を見て、同じものを分類できてきた。
- 少しずつではあるが、朝の支度等で写真カードを見て具体物を取り出すことができるようになってきた。

| | | | |
|-------|-----------------|-----|----------------|
| 教材教員名 | 基本図形の弁別 | 分類 | 記号の学習 - 形から文字へ |
| | | 授業名 | 国語・数学 (中学部) |
| ねらい | ・図形を見分けることができる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- ・見本を生徒の前に置き、それと同じ形の図形と違う形の図形を一つずつ机の上に置く。
- ・指で図形の縁をなぞらせる。
- ・同じものはどれか聞く。

<工夫点>

- ・木材を使用し、触った感覚がわかりやすいようにした。
- ・基本図形から取り組むようにした。

<効果>

- ・なぞることで図形を注視するようになった。
- ・形を見てマッチングをすることができるようになった。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 具体物と写真のマッチング | 分類 | 記号の学習 - 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 具体物と写真をマッチングさせることで、児童がほしいおもちゃなどがあった場合に写真で要求できるようになること。 • 動物や果物の名前や色を言って、教員とのやり取りを楽しむこと。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- 動物や果物の形の消しゴムを、底に写真が貼ってあり一つひとつ区切られている箱に入れる。

<工夫点>

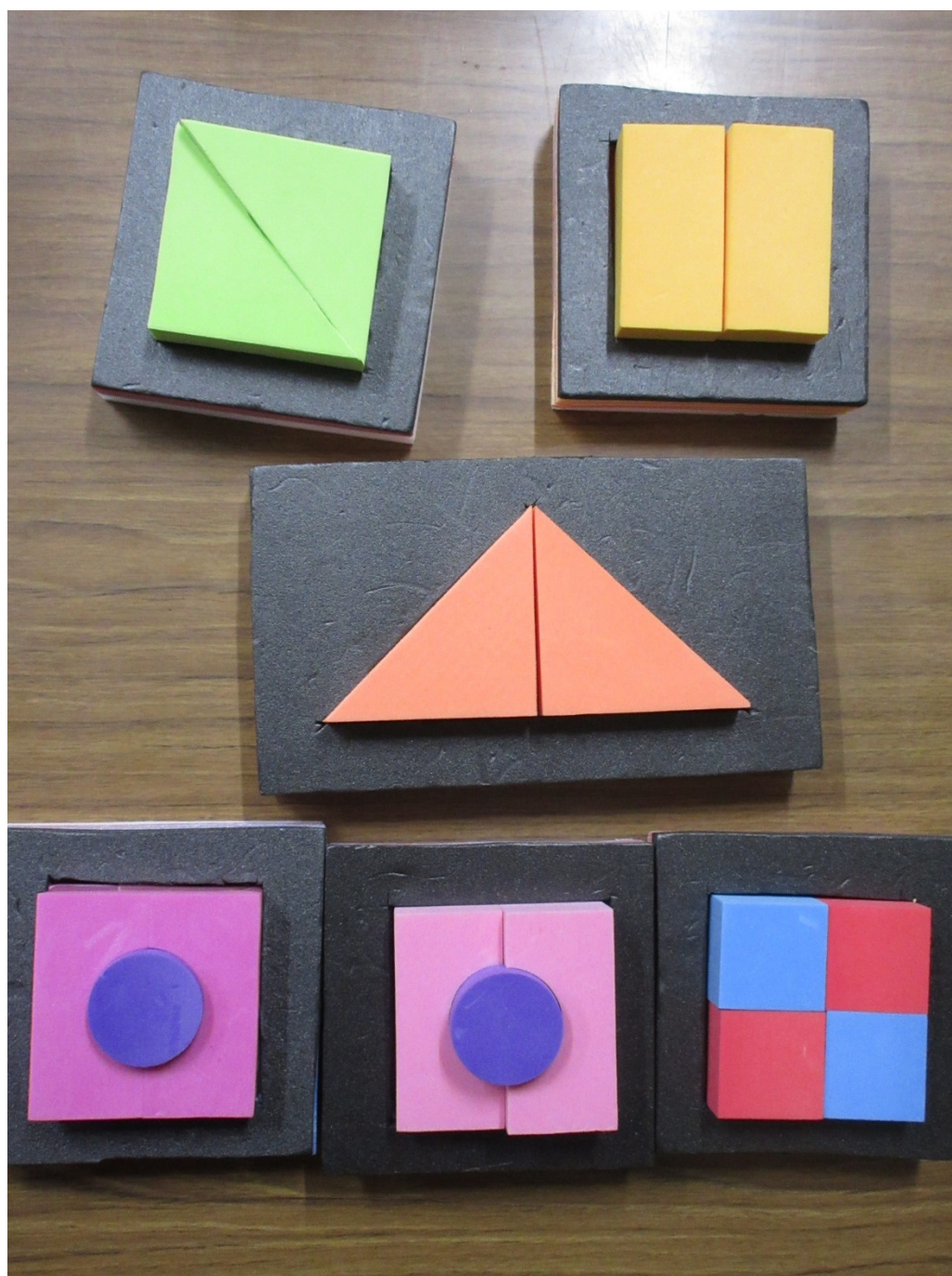
- 立体的な動物や食べ物など、児童が興味を引くものを使用した。

<効果>

- イラストを見て動物の名前や色を言うようになった。
- 写真カードを見て、ほしいおもちゃの写真を指させるようになった。

| | | | |
|-------|-------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 図形パズル | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・形を組み合わせて、図形を構成する | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

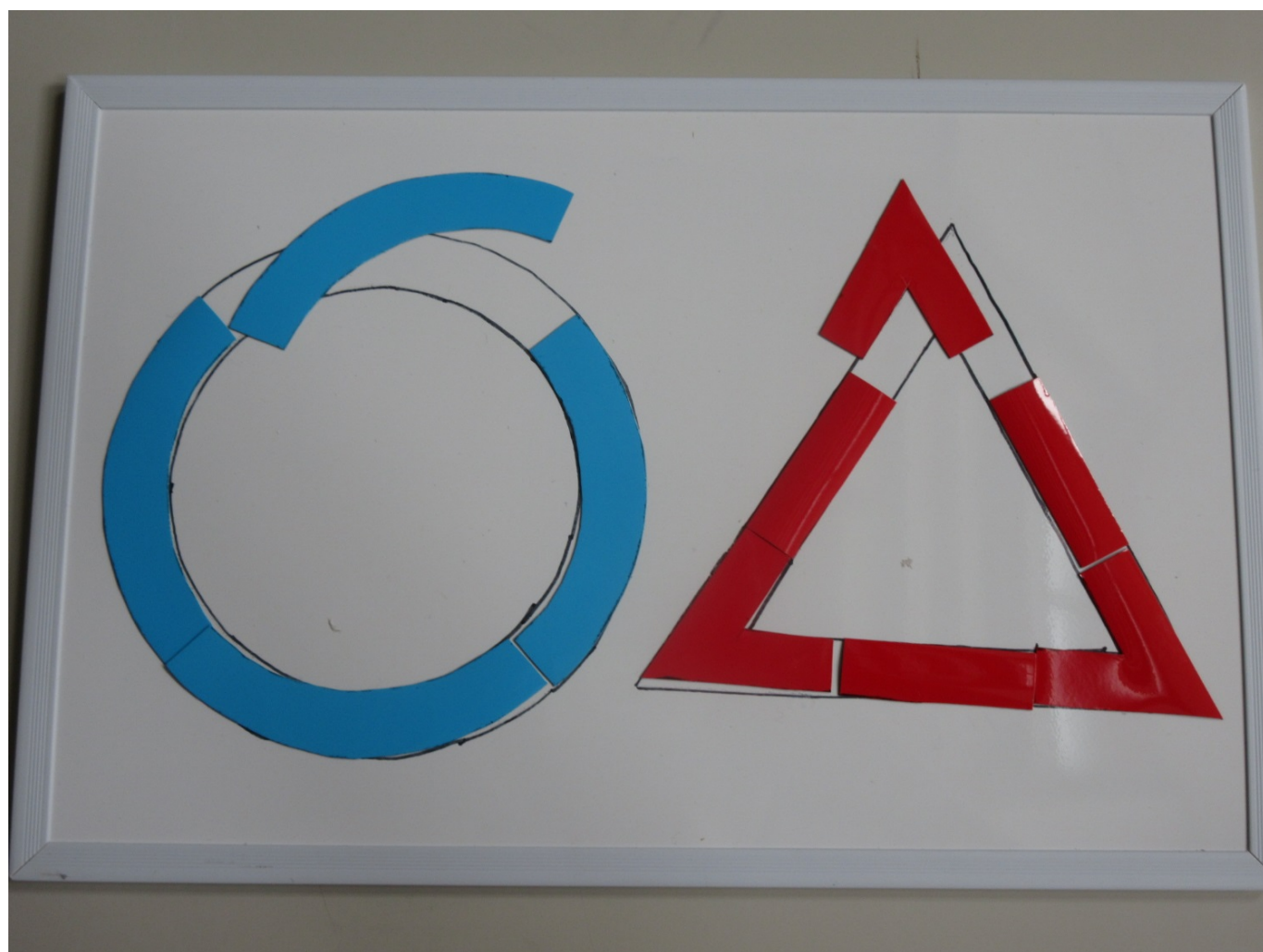
- ・形を組み合わせて正方形又は三角の枠にはめる。

<工夫点>

- ・分かりやすいように枠を黒で作成した。
- ・100円ショップのウレタンパズルを二つ用意し、合わせて作成した。

| | | | |
|-------|---|-----|-------------------|
| 教材教員名 | 図形の形作り | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> パズルのように並べることにより、図形の線の成り立ちを学習する。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 三角または円になるようにピースを並べていく。

<工夫点>

- 組み立ての経過の中で操作したものがずれないように、マグネットで作成した。

<効果>

- 書字学習の前段階として、形の成り立ちを辺や角、曲線でできていることを、ピースを順に並べながら学習する。

| | | | |
|-------|-------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 形のマッチング | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・簡単な形のマッチングをおこなう。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・下絵と透明なカードを分けておく。
- ・同じ形同士をマッチングする。

<工夫点>

- ・カードを透けるようにすることで、正しいか間違っているかすぐにわかる。

<効果>

- ・カードと下絵が合っているか確かめながらマッチングをすることができた。

| | | | |
|-------|---|-----|------------------|
| 教材教具名 | 図形の分類（4型） | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・見比べる力を養う。 ・同じ形と違う形を認識する力をつける。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・箱に示された図形と同じ形のカードを該当する場所に置くように伝える。

<工夫点>

- ・1人でも取り組めるように製作した。
- ・4つに区切られたお菓子の空き箱を再利用した。

<効果>

- ・この課題に取り組む前は、見本と重ねることができる透明プラ板を用いた正誤が分かりやすいマッチング課題に取り組んだ。見る力が養われ、形には違いがあるという認識ができたところで分類課題に取り組むと、正確に分類することができるようになった。

| | | | |
|-------|---|-----|-------------------|
| 教材教員名 | 食べ物マッチング | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 複数の写真の中から選び取ることで、見て判断する力を高める。 • 一人で集中して取り組むことができる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 児童自身が袋から写真カードを取り出し、シートの写真と同じ写真カードをその上に貼る。

<工夫点>

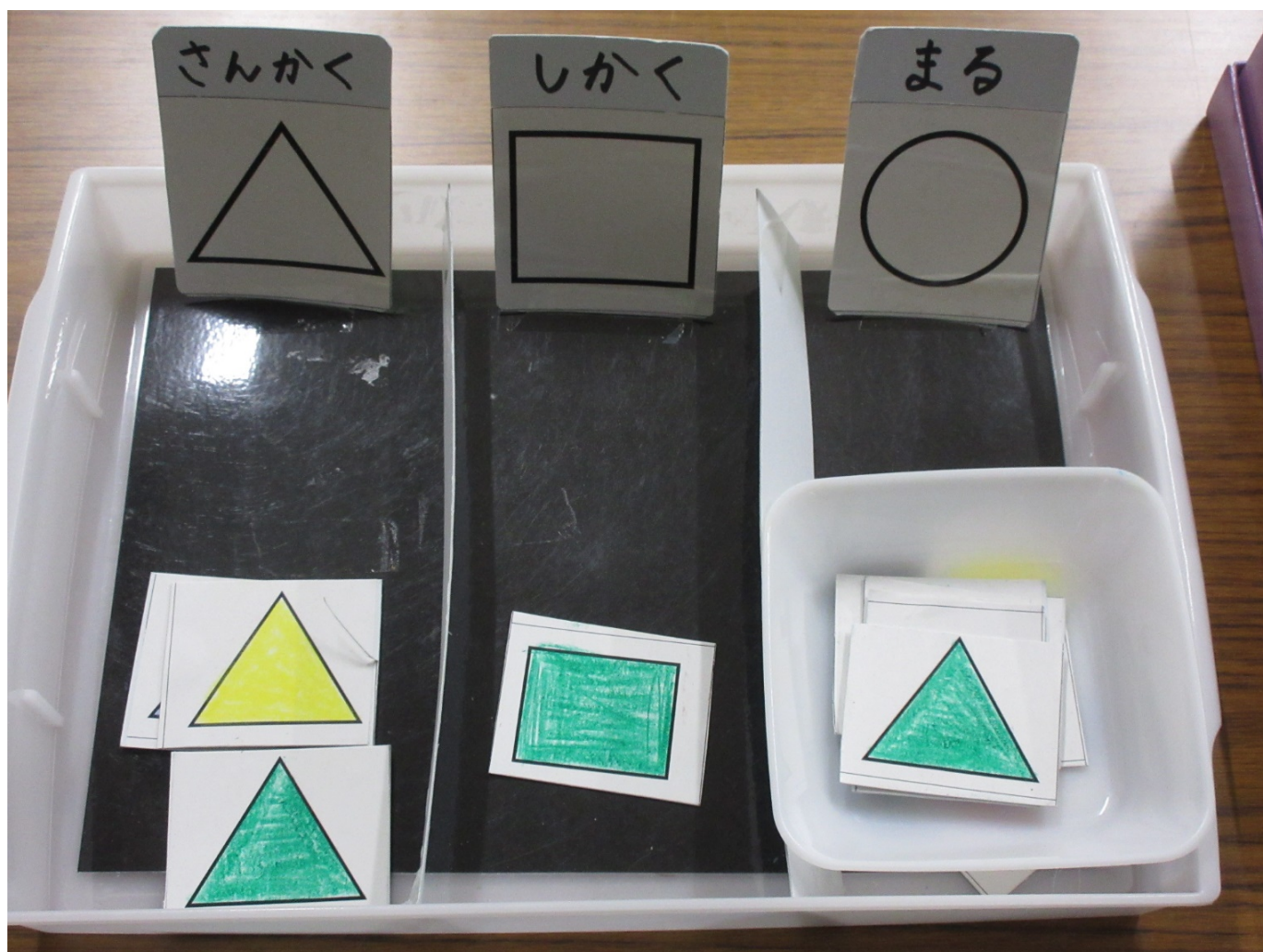
- 児童一人でも取り組め、扱いやすいように3枚のシートをまとめたり、袋に写真カードを収納したりした。
- 課題に対する意欲を上げるため、児童の好きな食べ物の写真を用いた。

<効果>

- 袋からの取り出しが日常生活でも生かされるようになった。

| | | | |
|-------|---|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 形の弁別 (○△□) | 分類 | 記号の学習 - 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・見る力を養う ・形の名称の理解の基礎を作る | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

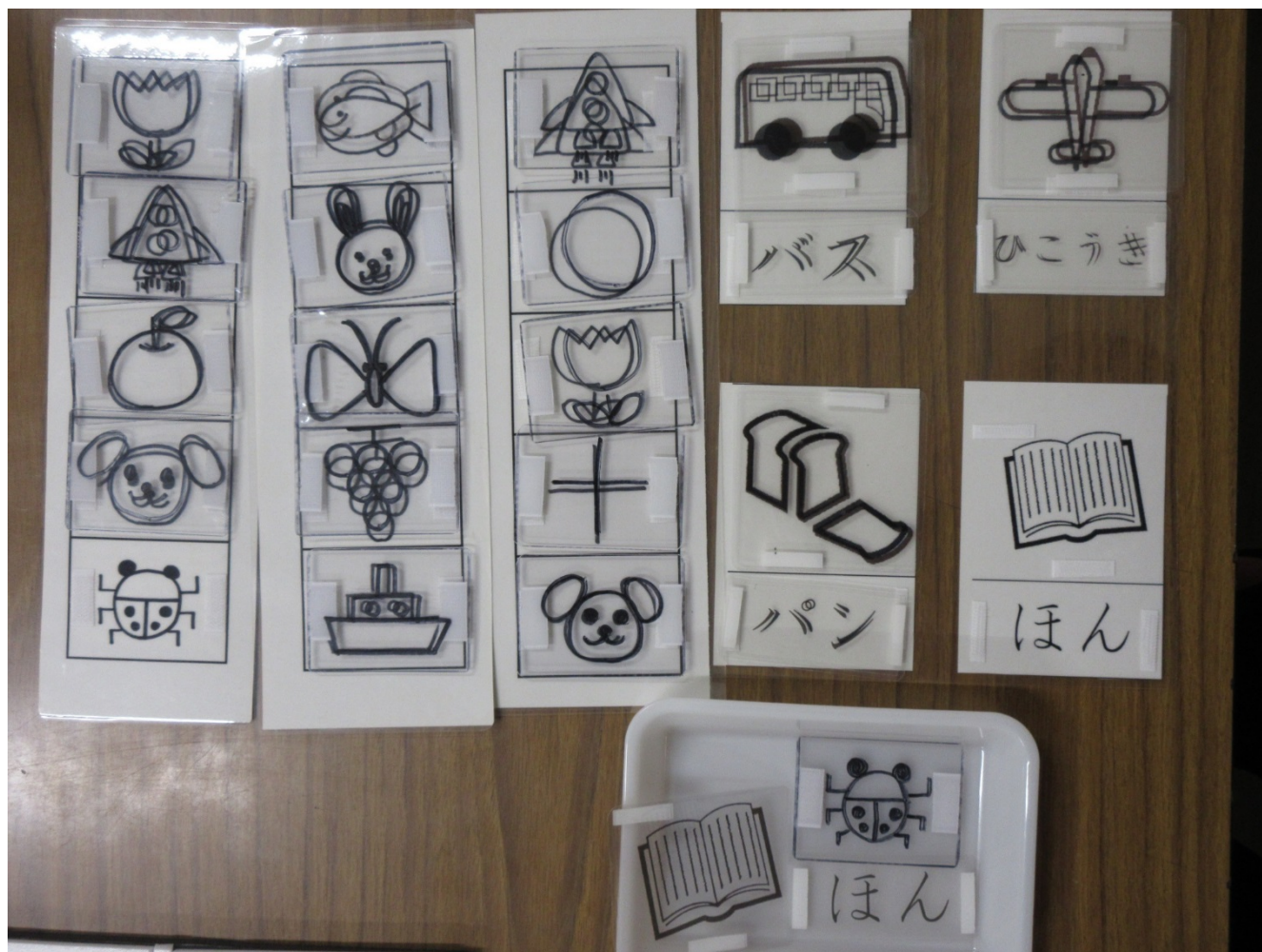
- ・言葉かけを聞いて提示された形カードを同じ形カードの所に入れる

<工夫点>

- ・提示するカードと同じ大きさのカードをケースに貼り、合わせて確認できるようにした

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 線画とひらがなのマッチング | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 線画とひらがなをマッチングする • シンボルと単語を結びつける | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 下絵と透明カードをばらばらにしておく。
- 下絵とカードをマッチングする。

<工夫点>

- 答えあわせがすぐできるように、カードを透けるようにした。

<効果>

- 児童が下絵と違うカードを重ねたときに、自分で間違いに気が付き貼りなおすことができた。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教員名 | 文字のマッチング | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 文字の字形でマッチングができる。 • イラストとその単語の形に慣れる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 文字カードを1文字ずつバラバラに外しておく。
- 台紙の文字を見ながらカードをマッチングして貼っていく。

<工夫点>

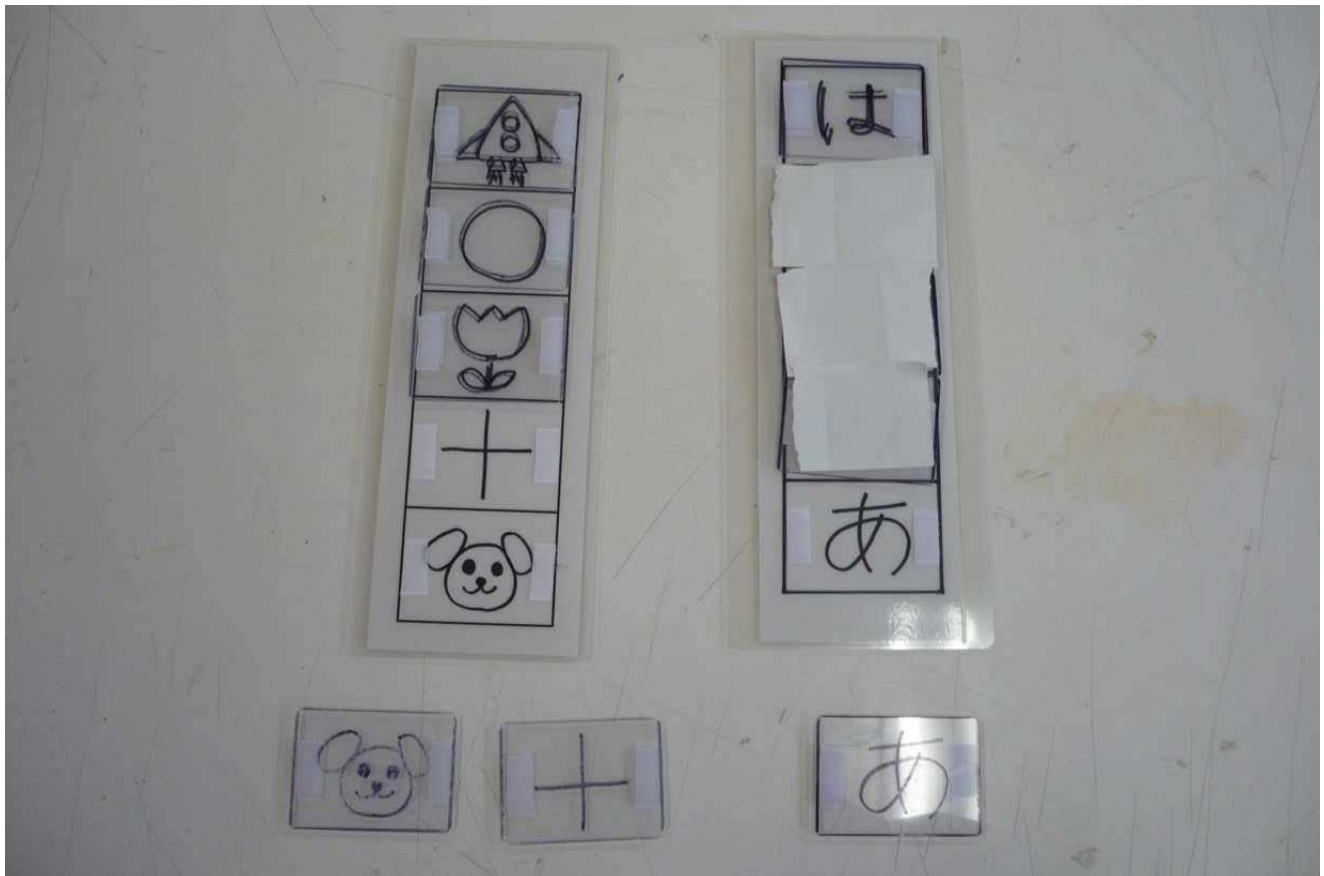
- 答え合わせがしやすいように、文字カードを透けるようにした。
- 文字の下にその単語が表す物のイラストをつけた。
- 台紙が動かないように、厚紙 (A4 ファイル) に貼り付け固定した。

<効果>

- 文字カードを1つずつ下の文字とあっているかを確認しながら、どこに貼れば良いかを考えながら取り組んでいた。

| | | | |
|-------|---|-----|-------------------|
| 教材教員名 | 線画マッチング | 分類 | 記号の学習 — 形から文字へ |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・見る力を養う。 ・文字への興味関心につなげる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- ・同じイラストや文字が書かれたシートとカードを提示し、同じ場所に貼るように伝える。はじめはカード1枚のみを提示し、徐々に提示するカードの枚数を増やす。

<工夫点>

- ・シートに貼るカードは透明な下敷きを用いて、正誤が分かりやすいようにした。
- ・はじめはイラストから取り組ませ、次は○や+等簡単な図形、次は文字を混ぜながら徐々に難易度を上げて取り組ませた。
- ・違う絵柄のカードを混ぜたり、提示するカードが足りなかったりと、教員に手助けを求める場面を設定し、取り組ませた。

<効果>

- ・自分の名前を理解できるようになるために取り組ませた。半年かけて取り組み、今では自分の名前の5文字は確実にマッチングさせることができるようになった。

| | | | |
|-------|---------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 赤と青の棒さし | 分類 | 記号の学習 - ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |

| | |
|-----|---|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> 空いている穴を見つけることで、注視する力を身につける。 箱を支えて棒をさすことで、両手の協応動作を身につける。 赤と青の色のちがいを学習する。 |
|-----|---|

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- 赤の箱に赤い棒を、青の箱に青い棒をさす。
- 赤の箱を立てて提示し、棒を箱の横に並べる。箱の穴に棒をさすように指示する。（青も同様）
- 赤と青の箱を並べて提示し、一本ずつ色名を言いながら棒を手渡す。2色の箱を見比べて同じ方にさす。

<工夫点>

- 机と椅子を近づくことに抵抗があるため、高さのあるタッパーを直立させることで机から離れていても見やすいようにした。

<効果>

- 箱を手にとって机に置かれた棒を一本ずつ取り、全ての穴に棒をさすまで集中して取り組めることが増えてきた。
- 色を弁別する認識はまだ薄いですが、繰り返すことで2色の箱を見比べて正解の箱に棒をさす様子がでてきた。

| | | | |
|-------|-------------|-----|----------------|
| 教材教具名 | 2色マッチング | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 国語・数学 (中学部) |
| ねらい | ・2色の弁別ができる。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・色のついた棒を取り、同じ色のついたマグネットにくっつける。

<工夫点>

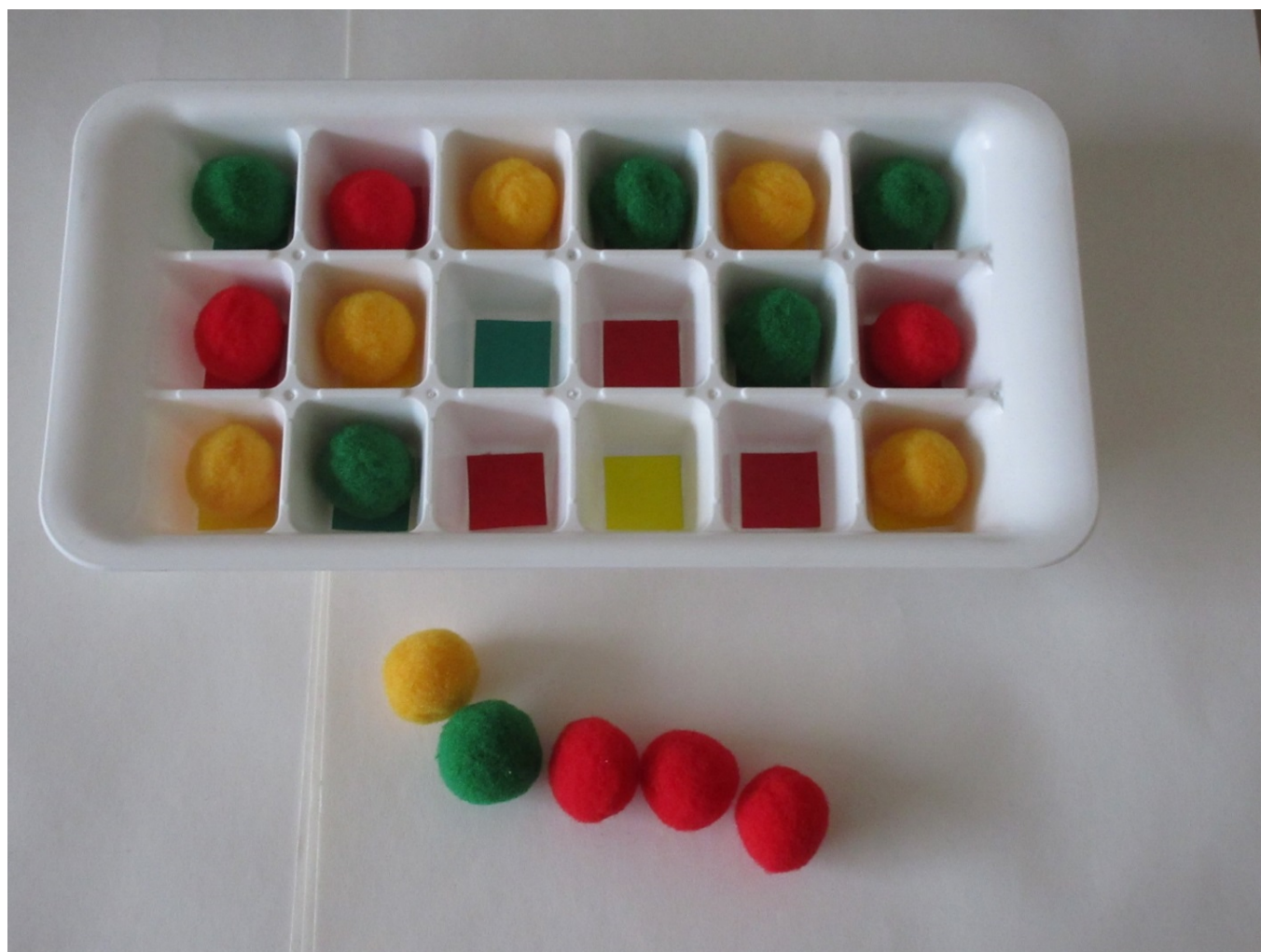
- ・磁石のS極、N極同士がくっつく特性を利用しており、正しく10個マッチングすることができる。

<効果>

- ・シンプルな課題を好む児童生徒にとって、色の学習をはじめのきっかけになった。
- ・授業中、何回も集中して取り組むことができた。

| | | | |
|-------|---|-----|------------------|
| 教材教具名 | 色のマッチング（3色） | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> 赤、緑、黄色のマッチングをする。 つまむ動作を練習する。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・製氷皿とデコレーションボールをわけておく。
- ・皿の色と同じ色のデコレーションボールを入れる。

<工夫点>

- ・ボールを入れたときに地の色が見えるので、答えあわせがしやすい。
- ・色の配置を互い違いにすることで手元に注目させるようにした。

<効果>

- ・地の色とボールの色をよく見てマッチングさせることができた。

| | | | |
|-------|-------------|-----|------------------|
| 教材教具名 | 色のマッチング（6色） | 分類 | 記号の学習 - ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |

ねらい

- ・見る力を養う
- ・色の名称の理解の基礎を作る

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・言葉かけを聞いて6色のカラーボールを同じ色のシールを貼ったマスに分類して入れる。

<工夫点>

- ・マスにシールを貼り、入れる場所を分かりやすくした。

| | | | |
|-------|---|-----|-------------------|
| 教材教具名 | フェルトボール色分け | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 道具を操作する力を高める。 • 色の弁別ができるようになる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- トングを用いてケース内に示された色と同じフェルトボールを入れる。
- 最後はケースにふたをする。

<工夫点>

- 最後にふたをすることによって終わりを明確にした。

<効果>

- ふたをする工程を入れる前は、再びフェルトボールを出し、何度も繰り返し行おうとしていたがふたをすることによって一度で終わることができた。

| | | | |
|-------|--------------|-----|----------------|
| 教材教員名 | ペグ挿し（色の弁別） | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 国語数学（中学部） |
| ねらい | ・集中して一人で取り組む | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）




<使用方法>

- ・ふたを開けて手前に置き、ペグをとって同じ色の穴にさしこむ。

<工夫点>

- ・色を強調するため台紙を黒にした。
- ・「さしこんだ感」を出すため、穴の大きさをジャストフィットサイズにした。
(大きすぎるとスカスカなので△)

<効果>

- ・ とても集中して一人でとりくめた。

| | | | |
|-------|------------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 色の分類 1 | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・形が違う様々なものを、同じ色同士で分ける。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・赤・青・黄色のビーズを同じ皿に入れておく。
- ・それぞれの色のトレーにビーズを分けていく。

<工夫点>

- ・色別トレーに色紙を敷き詰めて、見た目をわかりやすくした。

<効果>

- ・形に惑わされずに色で分類することができた。

| | | | |
|-------|------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | ビーズのモール通し | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・モールと同じ色のビーズを通す。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・ビーズはひとまとめにして皿に入れておく。
- ・モールと同じ色のビーズを通す。

<工夫点>

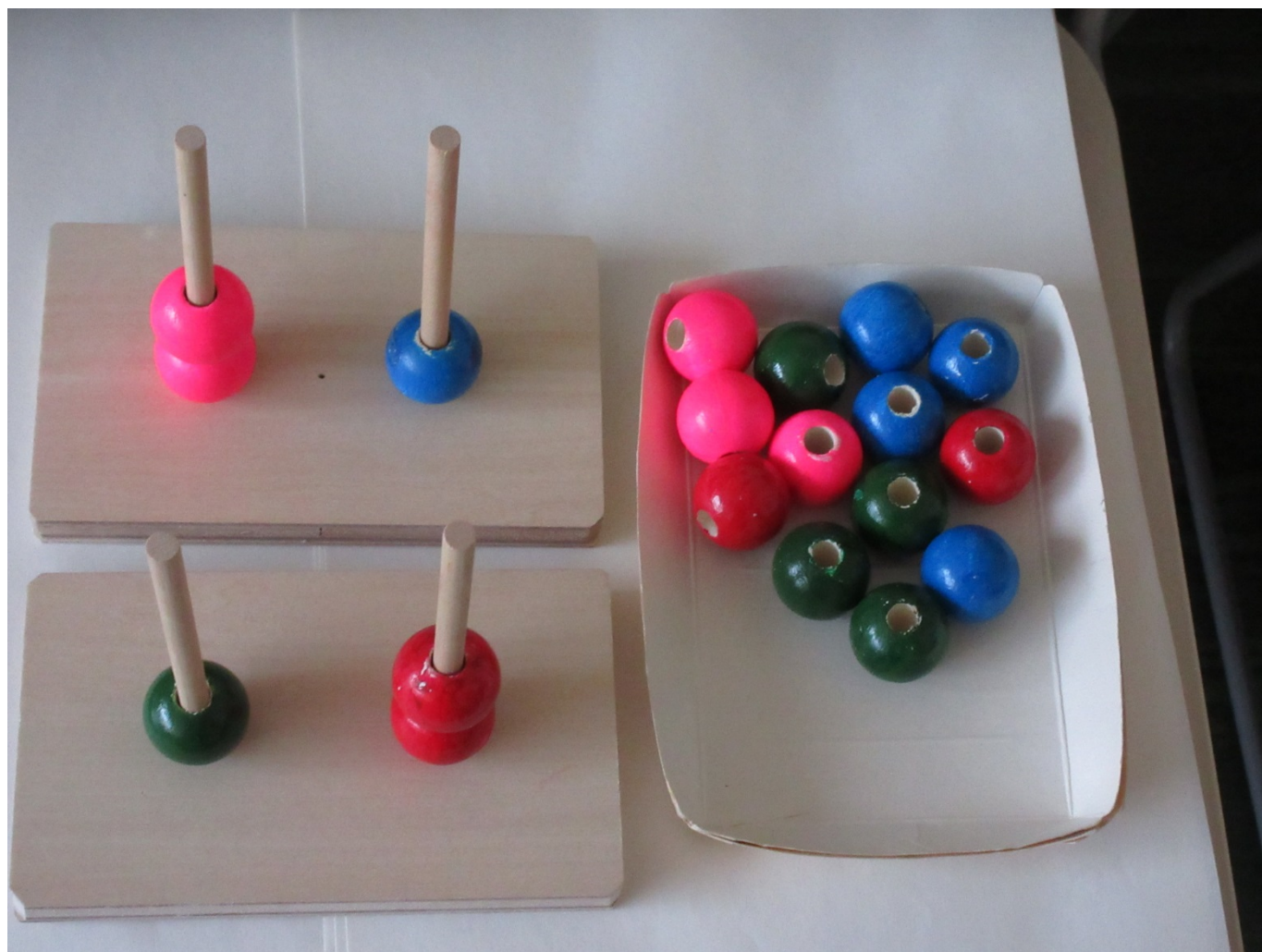
- ・モールの先にビーズを留めて、その色を見本にビーズを選択して通すようにした。

<効果>

- ・同じ色のビーズを選び、モールに通すことができた。

| | | | |
|-------|---|-----|----------------|
| 教材教具名 | 色弁別の玉挿し | 分類 | 記号の学習 - ことばの土台 |
| | | 授業名 | 国語・数学 (中学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 2色の色分けができる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 棒に同色の玉をさしていく。

<工夫点>

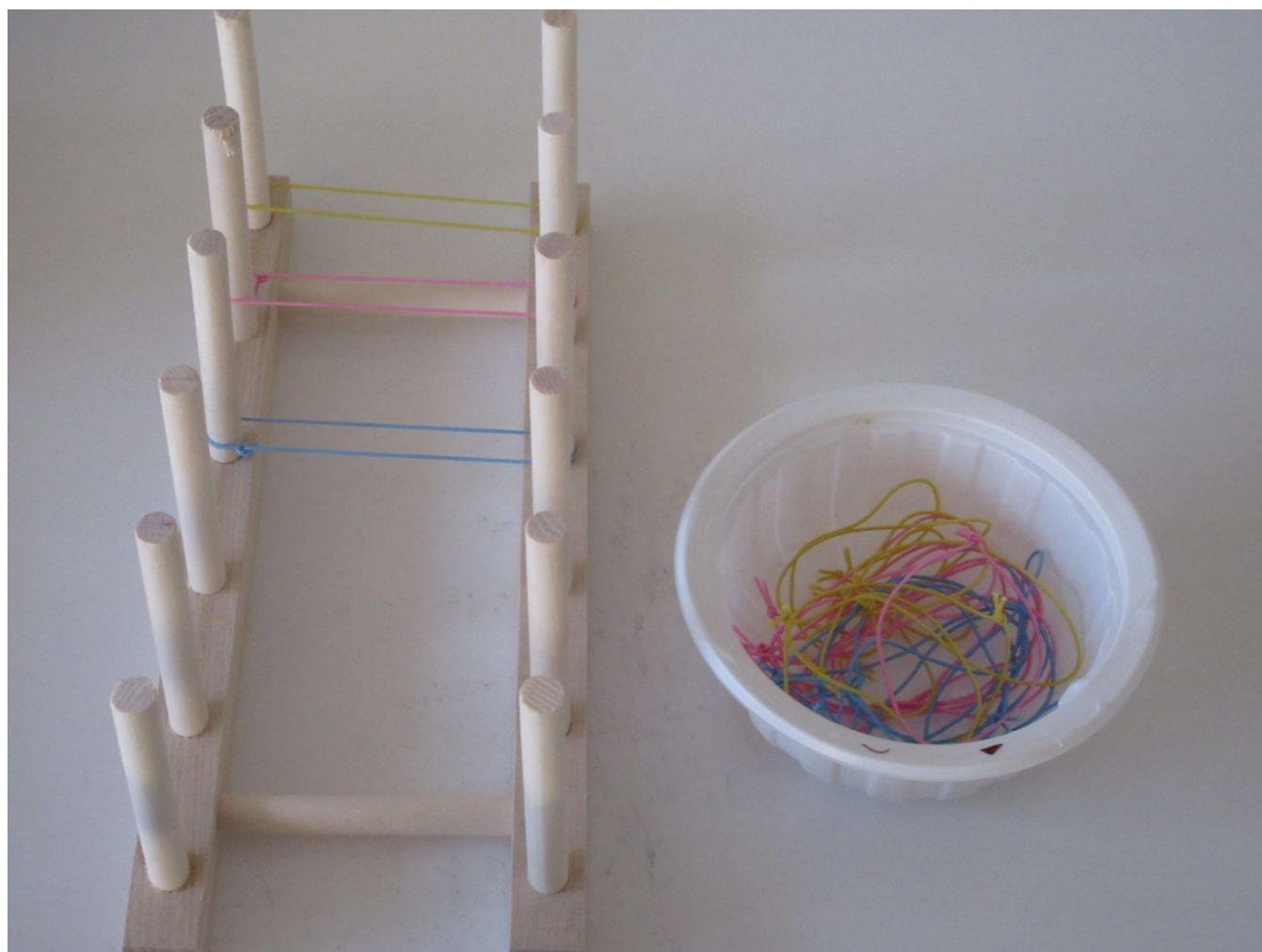
- 最初に1つ玉をさしておき、そこに同色の玉をさすようにした。

<効果>

- 2色を色分けして棒さしができるようになった。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 同じ色の輪ゴムかけ | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 色を見分ける。 • 手指の巧緻性を高める。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- 何色かの色輪ゴムを皿に入れておく。
- 同じ色の輪ゴムを同じ棒に掛ける。

<工夫点>

- それぞれの色の輪ゴムを1本かけて、同じ色の輪ゴムを掛けることが分かるようにした。

<効果>

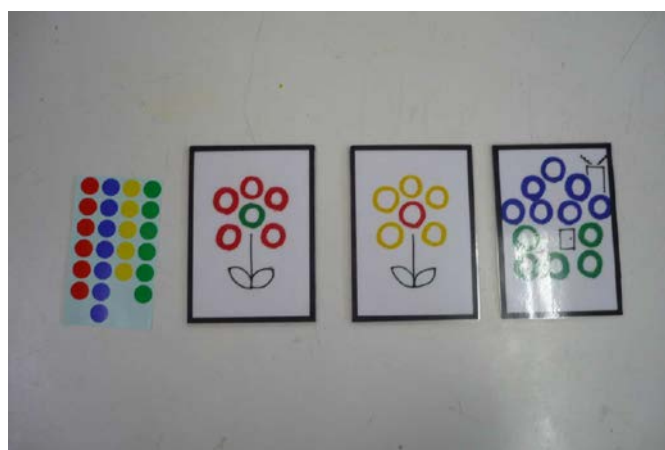
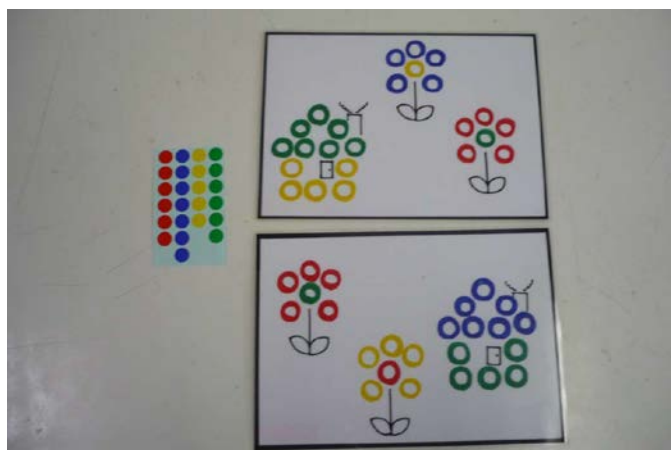
- (未実施です)

| | | | |
|-------|-------------|-----|------------------|
| 教材教具名 | シール貼り（色の弁別） | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |

ねらい

- ・見る力を養う。
- ・色の弁別ができるようになる。
- ・手指の巧緻性を高める。

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・台紙と使用する色・枚数のみがあるシールシートを渡し、取り組ませる。

<工夫点>

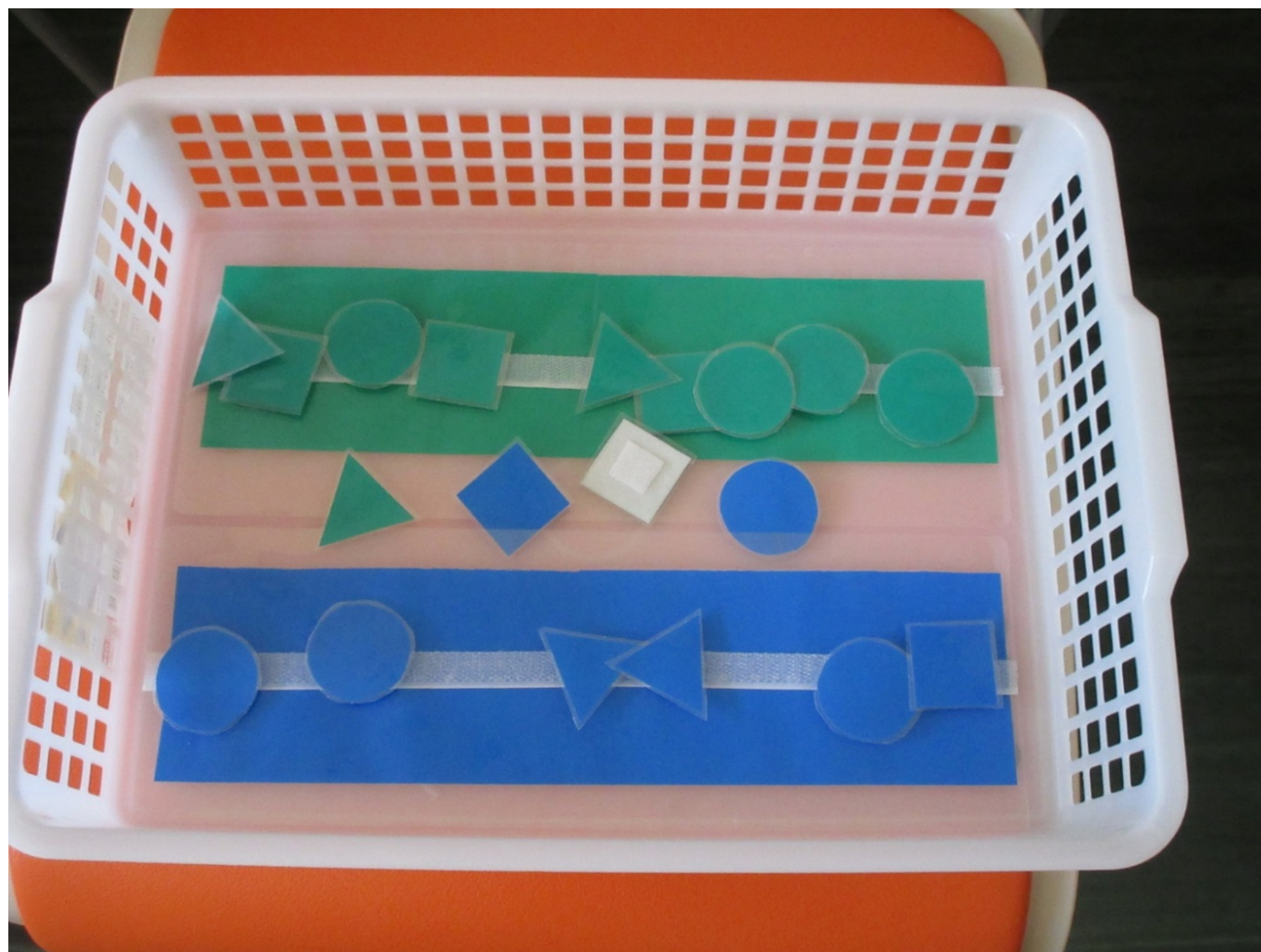
- ・繰り返し使えるようにラミネートをかけた。
- ・シート裏にすべり止めを付けて固定しやすくした。
- ・小さなゴミ箱を用意し、貼り終えたシールシートを入れるようにした。
- ・はじめは4色のシールと3種類のイラストが描かれたA4の台紙が難しかったため、2色のシールを用いる小さい台紙から取り組ませ、徐々にシールの色や種類を増やした。

<効果>

- ・色の弁別が確実になったうえ、シールをはがす際に両手を使うことから、手元をよく見て活動するようになった。

| | | | |
|-------|------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 色の分類 2 | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・○△□のチップを色で分類する。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・チップと台紙を分けておく。
- ・台紙の色ごとにチップを分類する。

<工夫点>

- ・答えあわせがしやすいように、台紙全面に分類する色紙を貼った。

<効果>

- ・形に左右されずに色で分類することができた。

| | | | |
|-------|---|-----|------------------|
| 教材教具名 | ブロック組み（色・形の弁別） | 分類 | 記号の学習 — ことばの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・色や形を弁別する力を養う。 ・手指の巧緻性を高める。 ・一人で集中して取り組むことができる。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・見本と同じ色と形のブロックを組み合わせてケースに入れる。

<工夫点>

- ・実物をケースに貼り、ブロックの色と形を分かりやすく提示する。

<効果>

- ・回数を重ねるごとに色の上下や形が正確になった。どのケースにも入らない仲間外れのものを用意しても間違えなくなった。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 細長い板の長さ | 分類 | 記号の学習 — かずの土台 |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> 見本と同じ長さを選ぶことができる。長さの違いの理解。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- 見本と同じ長さの細長い板を選んで、隣に貼り付け確かめる。

<工夫点>

- めくり式にしたことで、できるようになってきたら順番を変更したり、自立課題として一人で取り組めるようにした。

| | | | |
|-------|------------------|-----|------------------|
| 教材教具名 | 数字並べ（1～10） | 分類 | 記号の学習 － 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 国語・数学 （中学部） |
| ねらい | ・ 1～10までの数順を覚える。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・ 1～10までの数字を左側から順番にマスの上に並べる。

<工夫点>

- ・ 順番を間違えたときにすぐに訂正ができるように小さいホワイトボードを使用した。
- ・ 見本を見てマッチングするところから始め、徐々に見本の数字を減らして取り組ませた。

<効果>

- ・ 1～5までの数字は間違えずに並べられるようになった。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教員名 | 数字のマッチング | 分類 | 記号の学習 — 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 31までの数字をマッチングする。 • 順序の数を意識する。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 1から31までの数字が書かれた台紙と透明数字カードは分けておく。
- 台紙の数字とカードの数字をマッチングする。

<工夫点>

- 答えあわせがすぐできるように、カードを透けるようにした。

<効果>

- 児童が下絵と違うカードを重ねたときに、自分で間違いに気が付き貼りなおすことができた。

| | | | |
|-------|--------------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 数合わせ | 分類 | 記号の学習 — 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・数字カードと同じ数のクリップをカードにつける。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・数字カード数枚と同じ数のクリップを分けておく。
- ・カードのガイドに従ってクリップをつける。
- ・ガイドに沿わなくても数量が合っていればよい。

<工夫点>

- ・数量があやふやな児童のために、★印のガイドをつけた。

<効果>

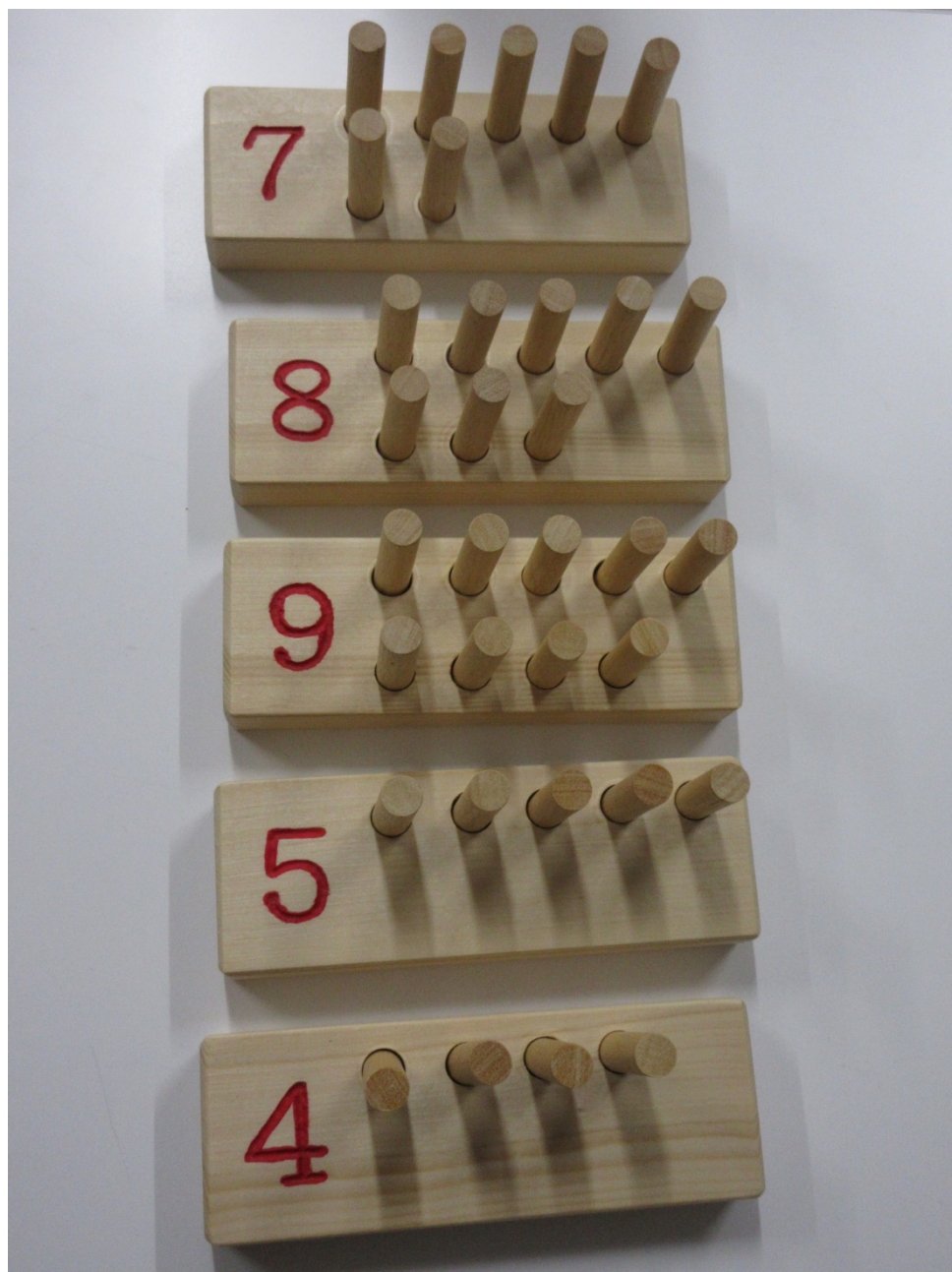
- ・ガイドに従って同じ数のクリップをつけることができた。
- ・ガイドを小さくするなど、徐々に手がかりを減らしていきたい。

| | | | |
|-------|--------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 1～10の数 | 分類 | 記号の学習 — 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |

ねらい

- 数量が分かる。
- ひとりで課題に取り組むことができる。

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- 数字をみて数字と同じ数のペグを差すよう伝える。

<工夫点>

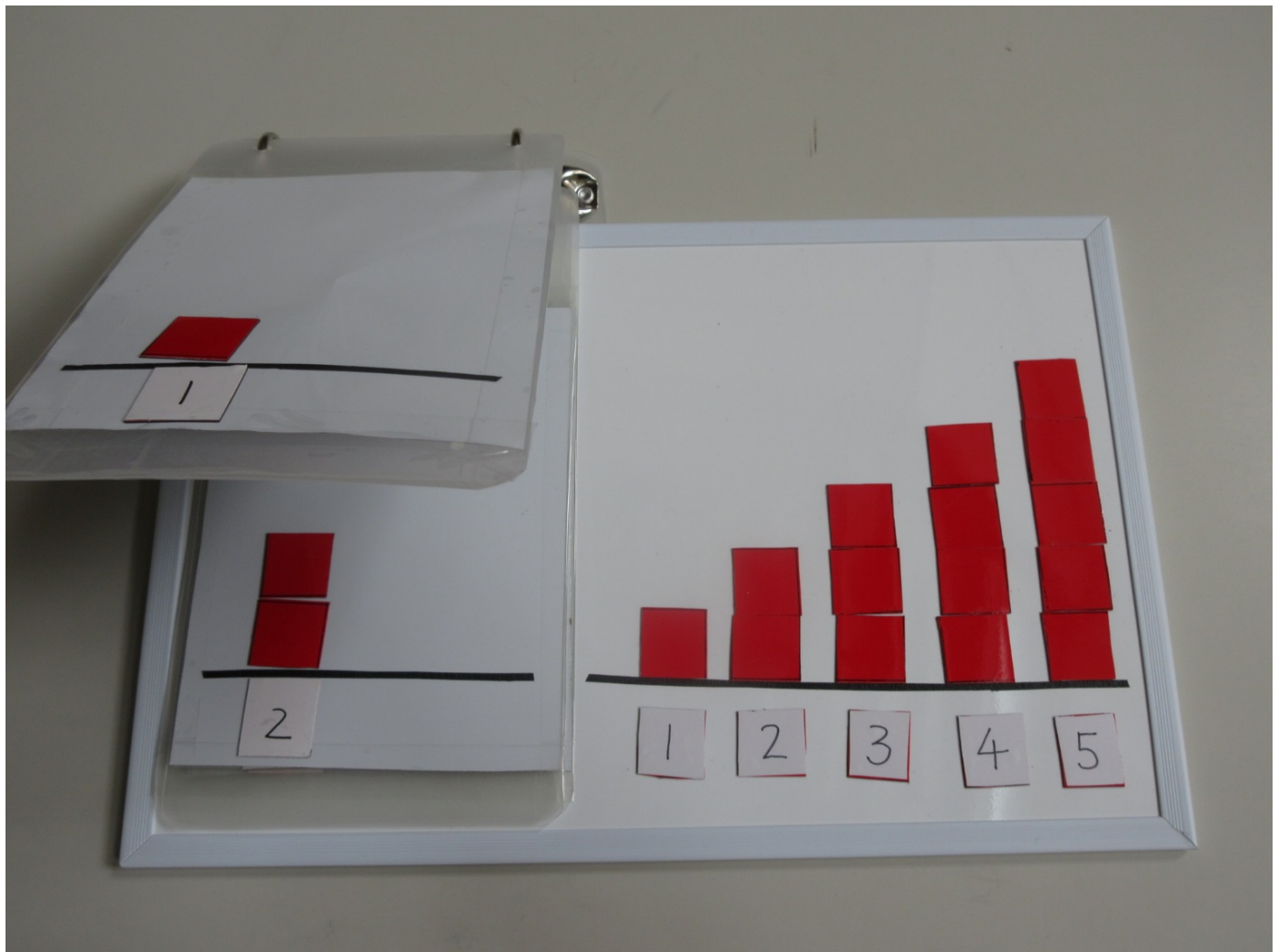
- 点線やくぼみを手がかりにすることができる。

<効果>

- 手かかりがなくても数字を見て同じ数の具体物を操作することができるようになってきた。

| | | | |
|-------|--------------------------------|-----|------------------|
| 教材教具名 | タイルの数（長さ） | 分類 | 記号の学習 － 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | ・見本と同じ数（長さ）のタイルを選ぶことができる。数の理解。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・見本と同じ量のタイルを選んで、隣に貼り付け確かめる。

<工夫点>

- ・めくり式にしたことで、できるようになってきたら順番を変更したり、自立課題として一人で取り組めるようにした。
- ・合わせて数字を使用することにより、数概念の学習に結びつくようにした。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教員名 | 数3—Ⅱ | 分類 | 記号の学習 — 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 1～3と数が増えていくことがわかる。 • 1～3個のボールを正しく入れることができる。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



〈使用方法〉

- 数字をみて、その数分のボールを入れる。

〈工夫点〉

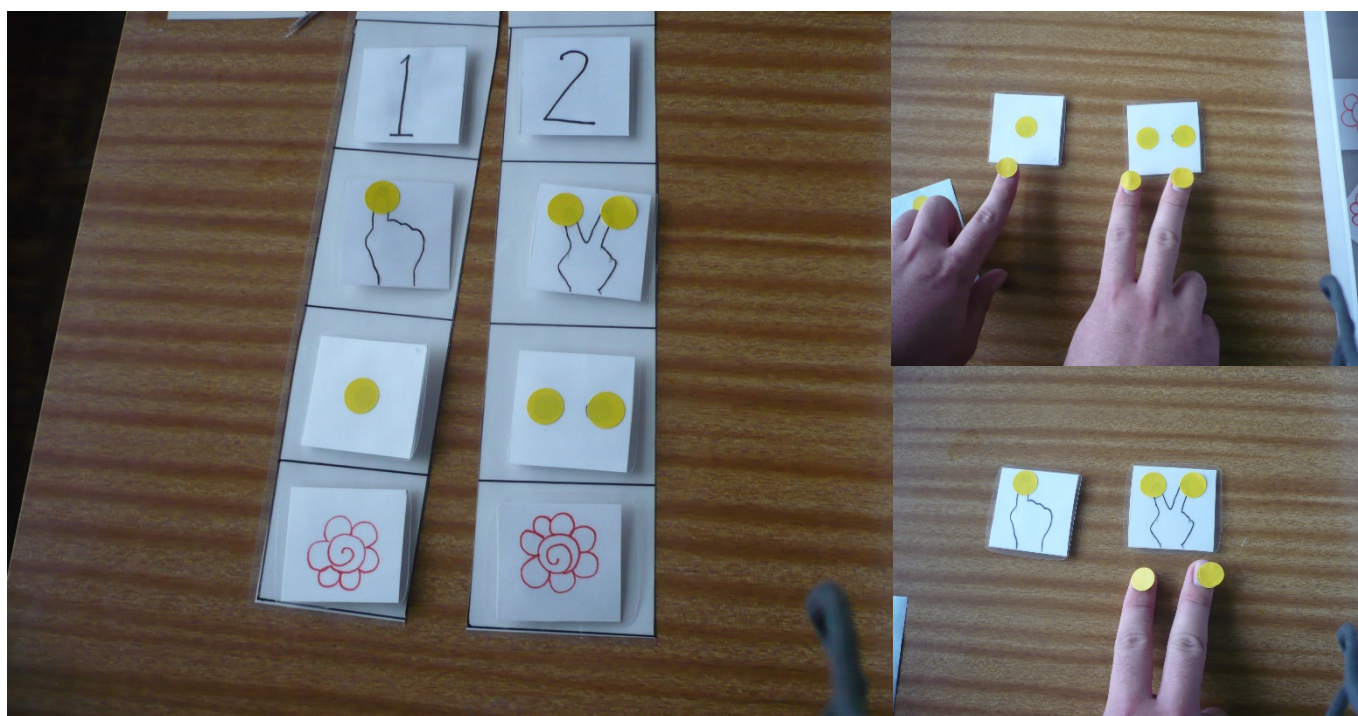
- はじめは、透明な筒の高さをその数分のみにし、ボールを入れる分の○シールを貼る。
- それができると、○シールをとり、筒の高さを同じにし、入れるボールの個数を同じにした。
- 数3までⅡと数5までと併用して使用する。

〈効果〉

- 1～3までの数を理解することができた。

| | | | |
|-------|---|-----|------------------|
| 教材教員名 | 数字,指数字,ドットカード | 分類 | 記号の学習 - 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 国語・数学 (中学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> 数字と指数字とドットの数と同じものとして認識することができる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 爪にシールを貼る。
- 指数字のカードを出し、同じ指の形をつくる。
- ドットカードを出し、ドットがいくつか指で答える。
- 数字の貼られているカードに指数字とドットのカードを貼る。

<工夫点>

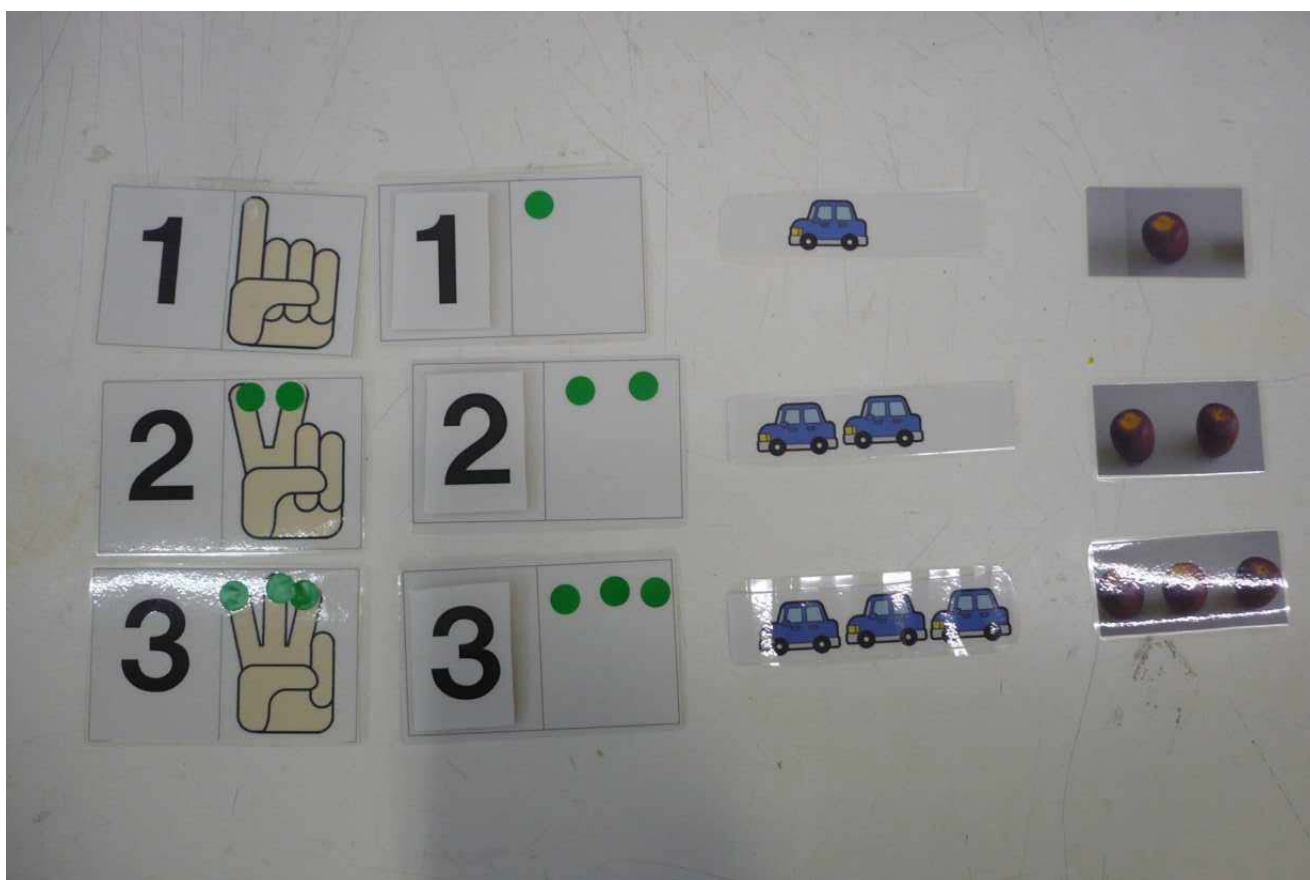
- 指にシールを貼ることで、ドットを数えやすくした。

<効果>

- ドットカードを出されたとき、正しい指数字を出すことができるようになってきた。

| | | | |
|-------|---|-----|------------------|
| 教材教員名 | 数3—I | 分類 | 記号の学習 — 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・指数字と数字のマッチングができる。 ・指数字にシールを貼ることができる。 ・イラストが示す数を見て、1～3と分けることができる。 | | |

教材教員の概要（使用方法・工夫点など）



〈使用方法〉

- ①指数字をみて数字カードを貼る。
- ②指数字に、シールを貼る。
- ③数字をみて、指数字を作りシールに指を合わせる。
- ④シールをみて、数字を貼る。
- ⑤イラストが示す数を見て、1～3にわける。

〈工夫点〉

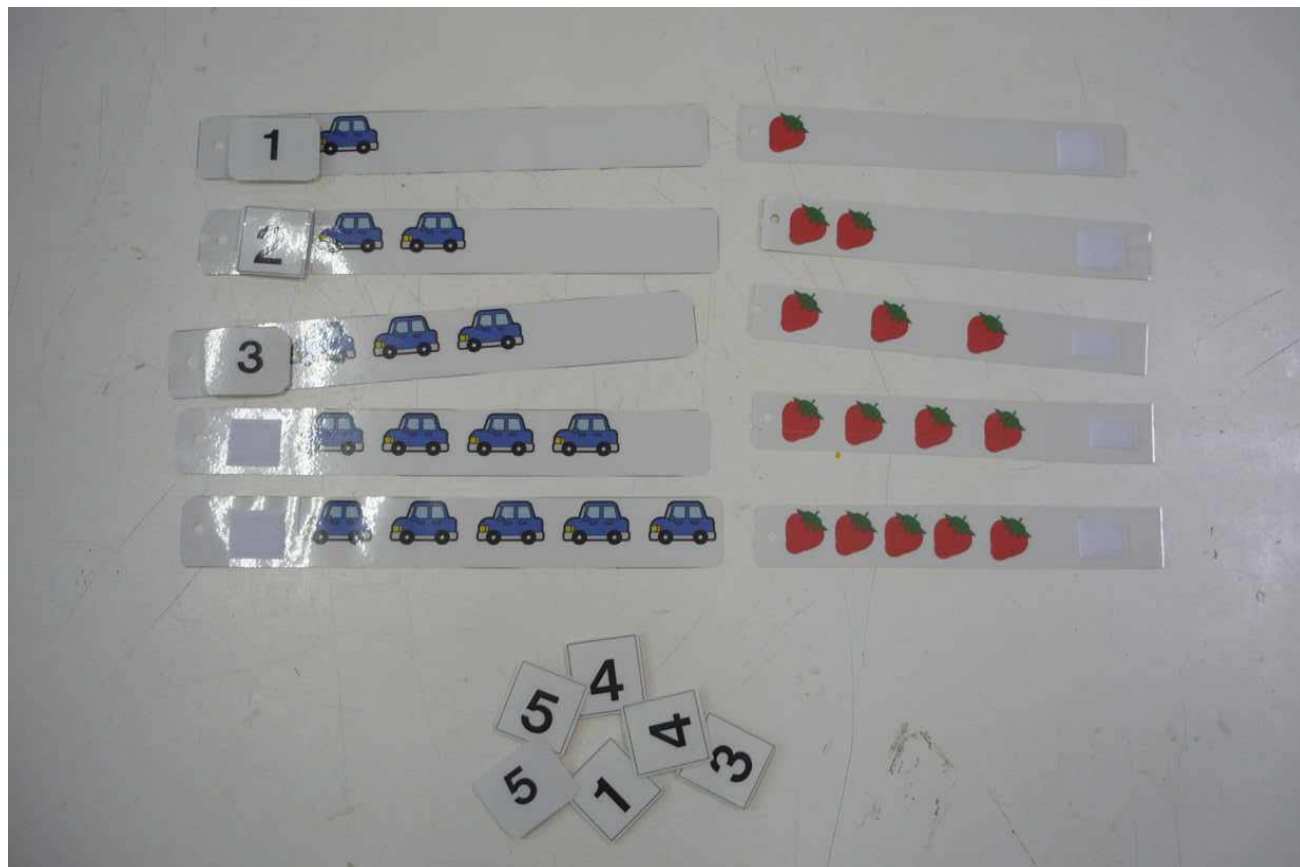
- ・数3までⅡと数5までと併用して使用する。

〈効果〉

- ・1～3までの数を理解することができた。

| | | | |
|-------|---|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 数5 | 分類 | 記号の学習 - 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 具体物を貼り、その上を指で追いながら数唱を行うことができる。 • 数字をみて、正しい数分具体物を貼ることができる。 • 5までの数を理解する。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- はじめに貼る場所に〇がついたものから始め、正しい数を貼る。教員と一緒に指さししながら数を数える。
- 〇の目印がないものでも数分貼る。

<工夫点>

- 具体物を貼ることで、指差ししながら数を数えやすくなった。

<効果>

- 指差しと数唱が一致した。
- 1～5までの数を理解することができてきた。(現在も使用中)

| | | | |
|-------|--|-----|------------------|
| 教材教具名 | 色と数の組み合わせ | 分類 | 記号の学習 - 数の理解に向けて |
| | | 授業名 | 国語数学（高等部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> • 3色の違いや 10 までの数等の指示を理解して作業する。 • 10 までの数概念を確実にする。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- カラーシールと数字の指示に従い、同じ色と数の飴を袋に詰める。
- 詰めた後は、数字が書かれたシートに飴を並べ、数が合っているか確認する。

<工夫点>

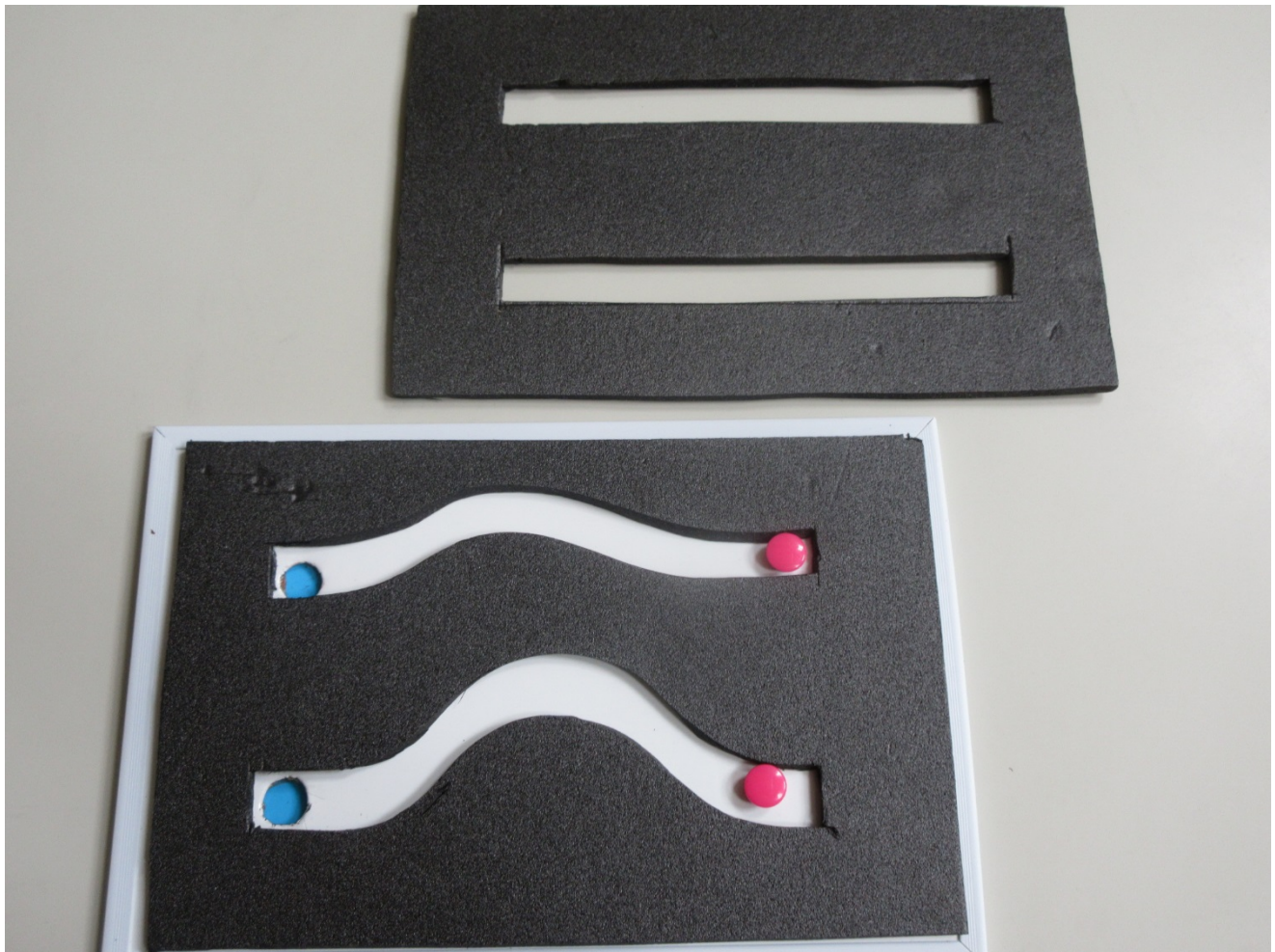
- 食べ物（に見立てた教材）を詰めることで学習への興味関心を引くようにした。
- シートを使うことで、詰めた数の確認を自分でできるようにした。
- 過不足なく飴を用意することで、「余ってる」「足りない」などの混乱を減らすようにした。

<効果>

- 「キャンディやさんだよ」と言い、楽しみながら学習に取り組んでいるようだ。
- 1～4までは数概念の一致が見られてきた。

| | | | |
|-------|----------------------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | 線なぞり | 分類 | 記号の学習 — 書字に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・スタートからゴールまでマグネット又はペンを操作することができる | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・スタートからマグネット又はペンを操作してゴールまで運ぶ。

<工夫点>

- ・溝の間を通り、ゴールは穴に入るようにし、操作時に触覚を使うことを可能にし、ゴールも分かりやすくした。
- ・①マグネットを指で操作する、②ペンで線をなぞる、の二つを同じ物で行えるようにすることで、ペンへの移行を行いやすくした。

| | | | |
|-------|----------------------|-----|----------------|
| 教材教員名 | なぞり書き（ゆるやかな曲線） | 分類 | 記号の学習 - 書字に向けて |
| | | 授業名 | 国語・数学（中学部） |
| ねらい | ・ 曲線を枠に沿ってなぞることができる。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- 1,マグネットをスタートに配置する。
- 2,スーパーボールを持たせ、人差し指だけ開く。
- 3,マグネットを枠に沿ってゴールまで動かす。
- 4,マグネットを外し、ペンでなぞる。
- 5,枠を外し、線を確認する。

<工夫点>

- ・ マグネットで練習をすることでゆっくり書くことを意識することができる。
- ・ スーパーボールを持たせることでなぞるための指に力を入れることができる。

<効果>

- ・ 枠を意識して線を引くことができるようになった。
- ・ ゆっくり線を引くことを意識できるようになってきた。

| | | | |
|-------|--|-----|----------------|
| 教材教具名 | なぞり（初級） | 分類 | 記号の学習 — 書字に向けて |
| | | 授業名 | 国語数学（中学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> 幅 1cm 程度のマグネットから脱落することなく、ていねいにペンでなぞる。 注視する。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）




<使用方法>

- BOXの上から順番にボードを取り、練習シートの上へのせ、マグネットの線からペン先が落ちないようになぞる。終わったボードはBOXの下の段へ入れていく。

<工夫点>

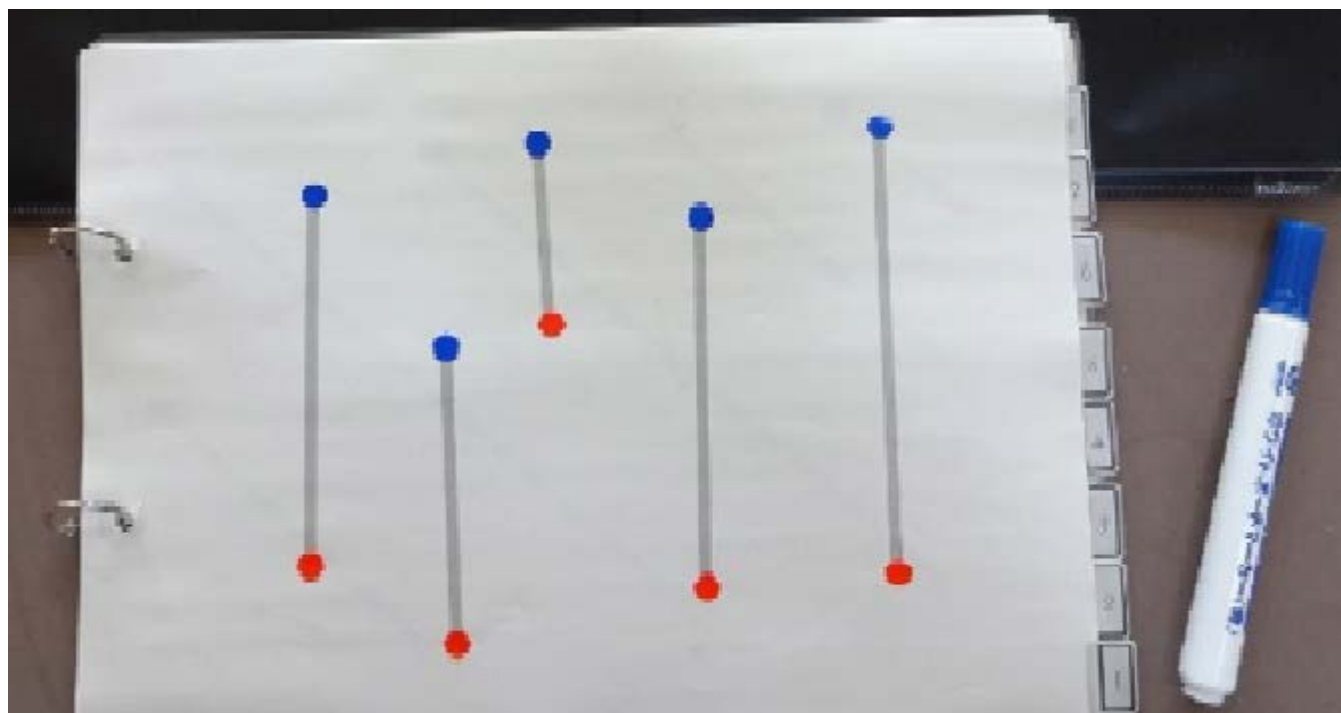
- ボードの表面に黒紙を貼り（直接貼るのでなくマグネットで貼り付け、いつでもはがして別のことにも使えるようにした。）、ラインを目立たせるとともに、脱落した際にできるペンの跡を消す効果をねらった。
- くり抜かれたものだと、手元を見ていなくてもできてしまうので、あえて一本一本ラインを切り出したものにした。また、自在に動かせるので便利であった。

<効果>

-  始めはなぐり書きだったが、なぞり（初級）を経てプリントで自分の名前のなぞりができるようになった。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教具名 | なぞり書き① | 分類 | 記号の学習 - 書字に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・ 始点と終点を意識して、フェルトペンで線をなぞることができる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- ・ 青のシールから赤のシールまでの間に書かれている線をペンでなぞる。
- ・ 縦線、横線を組み合わせた簡単な図形や螺旋をなぞることができる。

<工夫点>

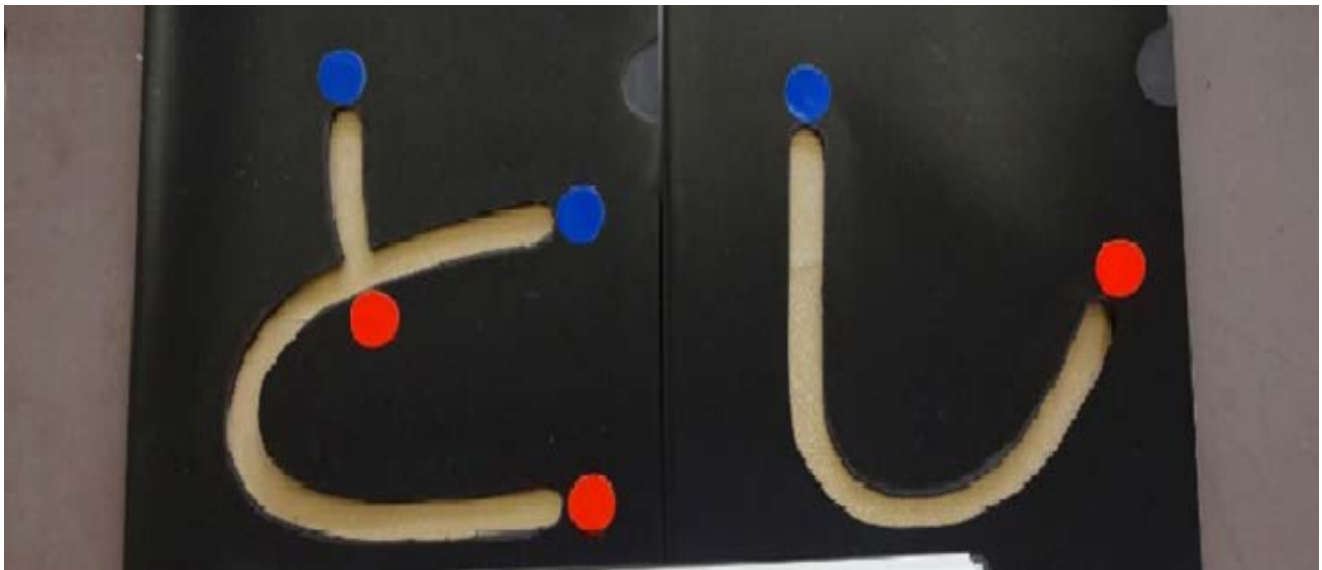
- ・ 始点と終点のシールの色を変えて、書き始めと書き終わりを意識できるようにした。
- ・ 力の加減が視覚的に分かるように、ペン先の柔らかいフェルトペンを使用した。

<効果>

- ・ 終点のシールを見て、シールの所でペンを止めることができた。
- ・ 螺旋や交差線を手本の線を見てなぞることができた。

| | | | |
|-------|--|-----|-------------------|
| 教材教員名 | なぞり書き② | 分類 | 記号の学習 — 書字に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・くぼんでいる枠内を指でなぞることができる。 ・ペンでなぞって文字を書くことができる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- ・サンドペーパーを挟んで、枠内を指でなぞる。
- ・白い紙を挟んで、枠内をペンでなぞる。

<工夫点>

- ・触ったときに、周りと異なる感触を味わえるようにサンドペーパーを使用した。
- ・文字に注目できるように黒いファイルを使用した。

<効果>

- ・「と」、「し」のひらがなを書くときに、枠にペン先を当てないで書くことができた。

| | | | |
|-------|--|-----|------------------|
| 教材教員名 | 文字の構成となぞり書き | 分類 | 記号の学習 — 書字に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当（小学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの文字パズルができる。 ・ひらがなのなぞり書きができる。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）



<使用方法>

- ・文字の形と読み方の確認を行い、文字のパズルを行う。
- ・正しく構成できた文字の上を、ホワイトボードマーカーでなぞる。

<工夫点>

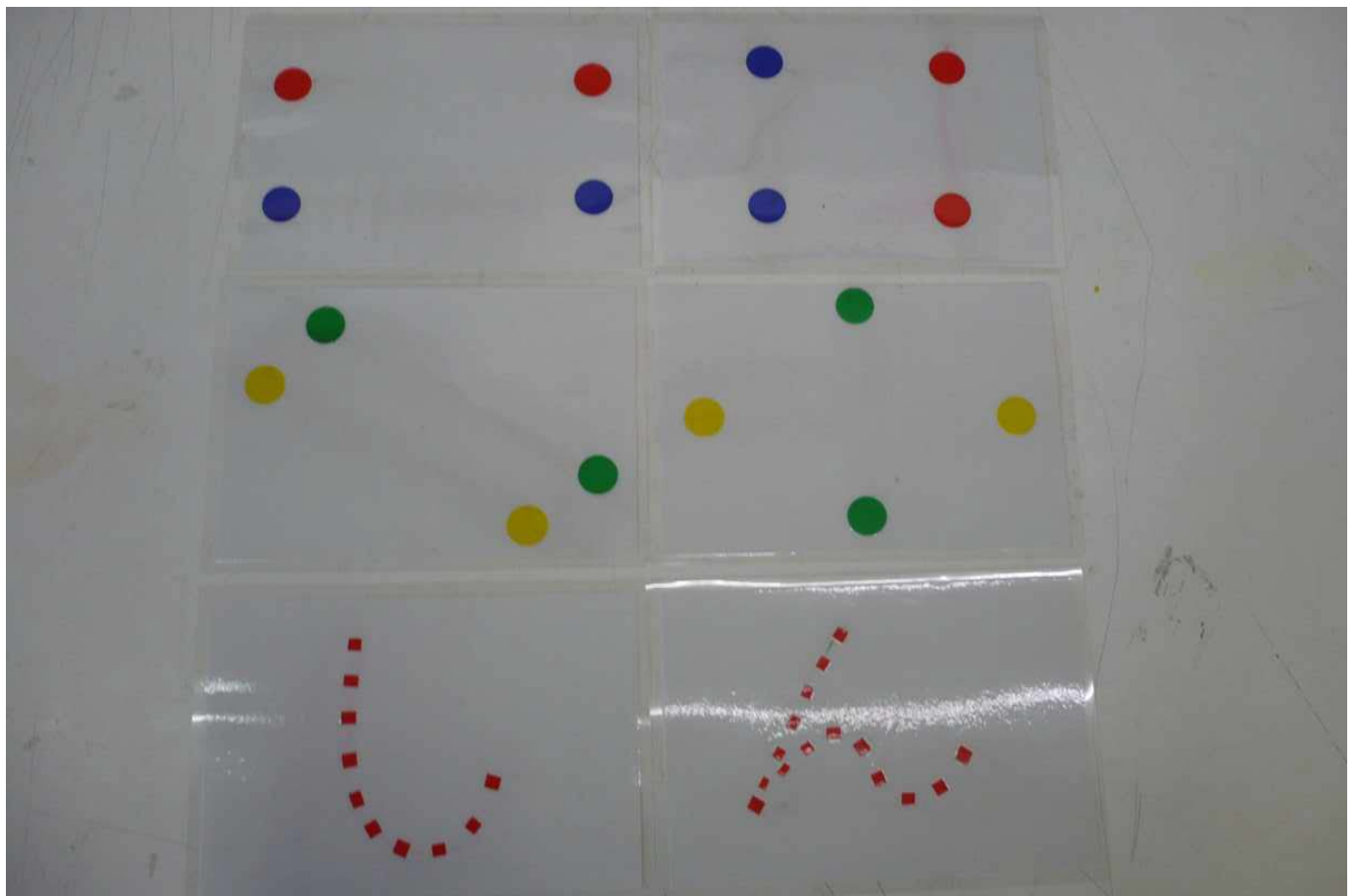
- ・白と黒のマグネットシートを使うことで、貼ることができ文字を構成しやすくした。また、その上をなぞる際にも、凹凸があるため、落ちた感覚を得やすくした。
- ・白いマグネットシートであるため、消しながら繰り返し使えるようにした。

<効果>

- ・文字への関心が高まった。
- ・ひらがなを正しくなぞり書きをすることができた。

| | | | |
|-------|--|-----|----------------|
| 教材教員名 | なぞり（中級） | 分類 | 記号の学習 — 書字に向けて |
| | | 授業名 | 国語数学（中学部） |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> 点から点まで、又は点を意識して線をひくことができる。 | | |

教材教具の概要（使用方法・工夫点など）




<使用方法>

- 同じ色の点から点までペンで線をひく。
- 点の上をなぞってペンで線をひく。「し」「ん」

<工夫点>

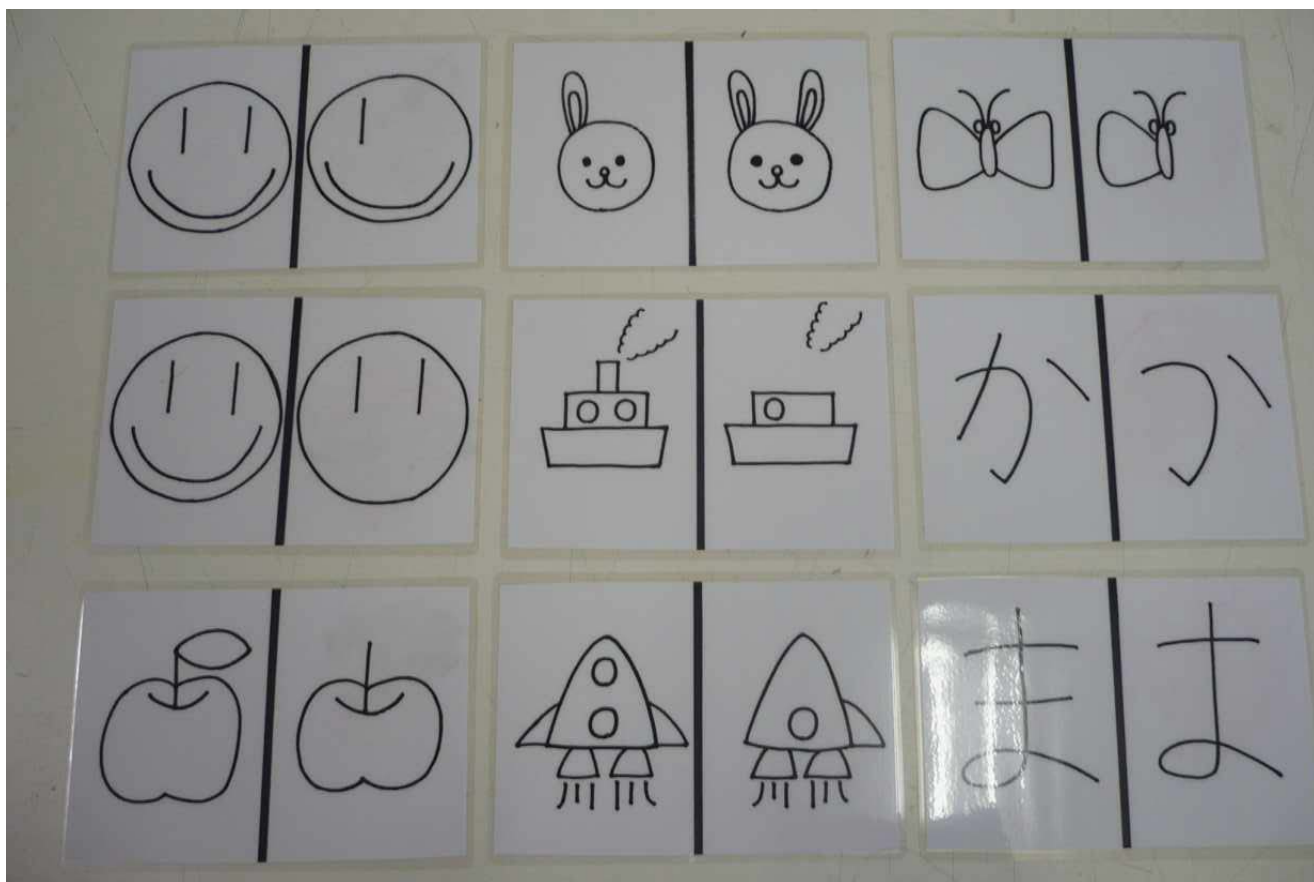
- ラミネート加工したことで、何度も使用できるようにした。

<効果>

-  なぞり（初級）から、段階付けて学習することで、できるようになり紙面での練習に移行した。

| | | | |
|-------|---|-----|-------------------|
| 教材教員名 | 間違い探し | 分類 | 記号の学習 — 書字に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・見る力を養う。 ・模写につなげる。 | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- ・シートを1枚ずつ提示し、「足りないところはどこ？」と質問する。正しく書き加えることができたなら、赤マーカーで丸を付ける。
- ・はじめはイラストの直線から取り組み、曲線、円、文字へと移行する。

<工夫点>

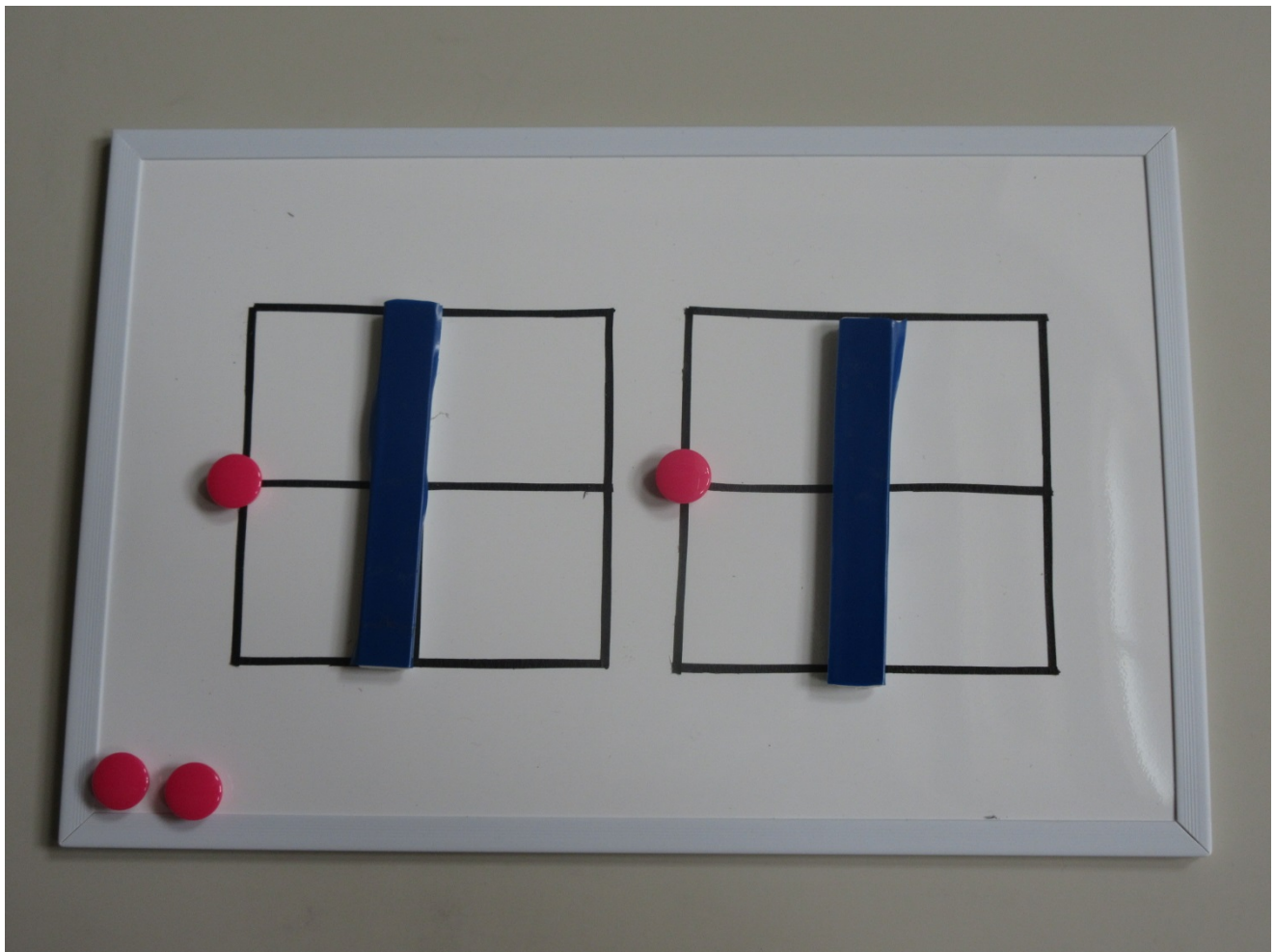
- ・繰り返し使えるようにラミネートをかけ、ホワイトボードマーカーで書き加えるようにした。

<効果>

- ・少しずつ模写ができるようになってきている。

| | | | |
|-------|------------------------------------|-----|-------------------|
| 教材教具名 | ます目上の位置 | 分類 | 記号の学習 — 書字に向けて |
| | | 授業名 | 個別課題※国語算数相当 (小学部) |
| ねらい | ・ます目上の点の位置を意識できるようにする。(文字を書く学習の準備) | | |

教材教具の概要 (使用方法・工夫点など)



<使用方法>

- 手本のます目の線の上にマグネットを置いておく。
手本と同じ位置にマグネットを置く。

<効果>

- 文字学習の前段階として、ます目上の位置理解を促す。文字を書く際にどの位置から書き始め、どこに向かって線を引くかを意識しやすくする。